



令和8年度 JA山形おきたま

病害虫防除基準

（果樹）

“安全・安心な『くだもの』づくり”

栽培履歴の完全記入に取り組みましょう

営農経済部

園芸課	TEL46-5302 FAX46-5312
資材課	TEL46-5304 FAX46-5311
東部配送センター	TEL58-0050 FAX57-2015
西部配送センター	TEL54-0047 FAX54-0048

各地区経済支店

米 沢	TEL37-2708 FAX37-2678
高 畠	TEL52-1211 FAX52-1213
南 陽	TEL45-3005 FAX45-2071
川 西	TEL42-2154 FAX42-6253
長 井	TEL88-9790 FAX88-1594
白 鷹	TEL85-5159 FAX85-2962
飯 豊	TEL72-2121 FAX72-2010
小 国	TEL62-5588 FAX62-2039

目 次

栽培履歴の出荷前提出について	1
農薬の使用基準のポイント	2
農薬散布をするときは飛散（ドリフト）に注意しましょう！	3
GAP（農業生産工程管理）の取り組みについて	4
やまがたGAP（抜粋）生産者用チェックシート	5
●さくらんぼ	6
●デラウェア（施設栽培）	8
●デラウェア（露地栽培）	10
●大粒種ぶどう（施設高尾・ピオーネ・安芸クイーン等）	12
●大粒種ぶどう（施設シャインマスカット等晩生種）	14
●りんご（ノボルト [®] -体系）	16
●りんご（ホルト [®] -体系）	18
●西洋梨（ノボルト [®] -体系）	20
●西洋梨（有袋ホルト [®] -体系）	22
●西洋梨（コンフューザ [®] -体系）	24
●もも	26
●葉面散布（肥料・一般資材）及び植物成長調整剤	28
農薬混用適否表（さくらんぼ）	29
農薬混用適否表（ぶどう）	31
農薬混用適否表（りんご）	34
農薬混用適否表（なし）	38
農薬混用適否表（もも）	41
農薬系統分類・殺ダニ剤の登録一覧表	44
防除履歴の記帳方法について	46
農薬コード表（果樹全般）	47

※栽培履歴（OCR用紙）、GAPチェックシート等は別途配布します。

山形おきたま農業協同組合・JA全農山形県本部
JA山形おきたま果樹振興会

注 意

栽培履歴の出荷前提出および事前チェックについて【お願い】

近年、食の安全安心については消費者の関心が非常に高まっており、産地としては安全で安心な農作物を供給する義務があります。当JAでは栽培履歴の記帳をはじめ、講習会等で適正な農薬の使用を呼びかけています。

平成27年度からはおきたま分析センターを廃止し全農山形へ農作物の分析を依頼しています。以前より分析検体数が少ないため、補完対策として事前に適正使用を確認できる“農業ナビゲーションシステム”を併せて活用することにより、安全安心を確保しています。

万が一、残留基準や農薬使用基準に適合しない農作物が発生した場合については、栽培履歴の事前チェックが適正使用の証明となります。**農薬の使用ごとの記帳と適正使用、事前提出を徹底頂きますようお願い致します。**

【農薬分析において異常値が検出された場合】

1. 無登録農薬（販売（使用）禁止農薬を含む。）が検出された場合

- ①検出された生産者 ⇒ 出荷自粛
- ②それ以外の生産者（出荷集団） ⇒ 出荷一時自粛 ⇒ **栽培履歴の全戸調査**
⇒ 使用がない場合は出荷

2. 適用外農薬が検出された場合

- ①検出された生産者 ⇒ 使用がある場合 ⇒ 出荷自粛
使用がない場合 ⇒ 分析で安全性を確認した場合は出荷
- ②それ以外の生産者（出荷集団） ⇒ 出荷一時自粛 ⇒ **栽培履歴の全戸調査**
⇒ 使用がない場合は出荷

3. 適用農薬の超過検出があった場合

- ①検出された生産者 ⇒
使用時期（日数）を満たしていない場合 ⇒ 必要日数を確保した上で出荷
分析で安全性を確認し出荷
農薬使用基準が遵守されていない場合 ⇒ 出荷自粛
- ②それ以外の生産者 ⇒ **栽培履歴の全戸調査**による安全性の確認後、出荷
※原因が特定できない場合は、出荷集団全戸の出荷自粛を継続し、検出された農家または出荷集団の構成員（それ以外の生産者）が再分析を行って安全性を確認後出荷

4. 残留基準や農薬使用基準に適合しない農作物が流通した場合

- ①出荷集団構成生産者全戸 ⇒ 出荷一時自粛及び自主回収、店頭へ表示
- ②栽培履歴等の全戸調査、または分析等での安全確認を行い、出荷再開を判断する
- ③産地の信頼が損なわれる、出荷先等への保証等の発生

【事例】①他県産野菜において、基準値超過の事案が発生。回収費用および見舞費用をあわせて3,000万円程度の補償金の支払義務が生じた。

②他県産野菜において、基準値超過の事案が発生。超過事例の報道後、当該JAの野菜は1円/kgでも買い手がつかず、他品目の取引価格は半値以下となった。

産地を守るため、履歴の記帳・出荷前提出を徹底しましょう！

◆農薬の使用基準のポイント

農薬を使用して病害虫防除や植物の成長調整等を行なう場合は、容器に記載されている注意事項をよく読み、農作物ごとに定められた使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数および同一成分の総使用回数等を厳守し、安全で安心な農作物の生産を心がけましょう。

◇使用方法の遵守

容器のラベルに表示されている内容を守って使用します。

- ① その農薬に適用がない作物へは使用しないこと。
- ② 定められた使用量又は濃度を超えて使用しないこと。
- ③ 定められた使用時期を守ること。
- ④ 定められた総使用回数以内で使用すること。

★新しい農薬はもちろん、使い慣れた農薬でも、変更がある場合があるので、使用前に必ずラベルや最新の登録内容を確認しましょう。



◇防除記録の記帳

各作物ごとの栽培履歴に農薬を使用した内容を正確に記帳します。記帳した内容は、農薬を安全・適正に使用したことの証明となります。

◇農薬と農作物に関連する法律

農薬には、殺虫剤、殺菌剤、除草剤、植物成長調節剤、殺そ剤、忌避剤、展着剤、天敵昆虫があります。

【農薬取締法】(農水省)

農薬の製造、輸入、販売、使用などについて規制します。

【食品衛生法】(厚生労働省)

飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止します。

このほかに、毒物劇物取締法、植物防疫法、環境基本法、水質汚濁防止法、消防法、水道法などがあり、全てを遵守する必要があります。



注意！

※必ず適用作物・対象病害虫・使用方法・使用時期・希釈倍数・使用量・使用回数を確認して農薬を使用して下さい。

農薬散布をするときには飛散(ドリフト)に注意しましょう！

残留農薬のポジティブリスト制度

▼食品衛生法・残留農薬のポジティブリスト制度が平成18年から始まりました。

▼この制度では、今まで残留農薬基準値がない農薬にも、0.01ppmという低い数値が基準値として設定されました。

▼この基準値をオーバーした生産物は、販売が禁止されるため、出荷停止・回収などの事態が想定されます。

つまり、これまで以上に気をつけなくてはならないのは……………**農薬の飛散**

どんなときに注意が必要？

使用しようとする農薬が周りの食用作物に登録（適用）のない場合 特に次の場合に注意が必要です！

1. 圃場同士の距離が近い時
2. 隣の食用作物の収穫が近づいてきた時
3. 飛散が起こりやすい散布方法の時

※風が強いほど飛散距離は大きくなります。 ※散布圃場に近い場所ほど飛散量は多くなります。

※飛散が多くなる傾向があるのは ・細かすぎる散布粒子のノズルを使う場合 ・散布圧力を上げすぎる場合

◆散布することを周りの栽培者に伝え、日頃からコミュニケーションをとるなど、地域の農業者同士の連絡を密にしておくことが重要です。

対策は？ 散布時に守りたいこと！

◎散布量が多くなりすぎないように気をつけましょう。 →散布は必要最小限の量と区域で行うようにしましょう。

◎風の弱い時に風向に気をつけて散布しましょう。 →風下に別の作物がある時はとくに注意が必要です。

◎散布の方向や位置に気をつけて散布しましょう。 →できるだけ作物の近くから、作物だけにかかるよう散布しましょう。

→圃場の端部での散布は外側から内側に向けて行うようにしましょう。

◎細かすぎる散布粒子のノズルは使わないようにし、散布圧力を上げすぎないようにしましょう。

→粒子が細かいほど、圧力を高めるほど飛散しやすくなります。

◎タンクやホースは毎日、洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

こんな対策も有効！

◎周りの作物にも登録のある農薬を使用する。

◎飛散しにくい剤型（粒剤等）の農薬を使用する。

◎まわりの作物をネットやシートなどで遮へいするなど、一時的に覆う。

◆飛散をできるだけ減らすよう工夫して散布しましょう。また、農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。

安全安心な農作物供給へ！

【GAP(農業生産工程管理)の取り組みについて】

【GAP】とは？

GAP（農業生産工程管理＝「良い農業のやり方」農業を行う上で違反や事故が発生しないようにするため、「点検項目」を決め、常にチェックしながら農業に取り組み、次に向けて「改善」を続けていくこと。

⇒年々、違反や事故が発生する可能性を小さくしていく取り組み。

【GAP 5本の柱】

1. 食品安全
安全で販売力のある「農産物」の生産
2. 環境保全
環境にやさしい農業の実践
3. 労働安全
作業者の安全と労働環境の向上
4. 人権・福祉
作業者の人権を保護し、労働環境を整備
5. 農場経営管理
品質・商品管理をしっかりと行う農場経営

Good Agricultural Practice (良い農業のやり方)

「Good=良い(プラス)」の反対は「Bad=悪い(リスク、改善点)」
農場内で起こる可能性のある
Badな部分を減らすことで、Goodな部分を増やしていく！

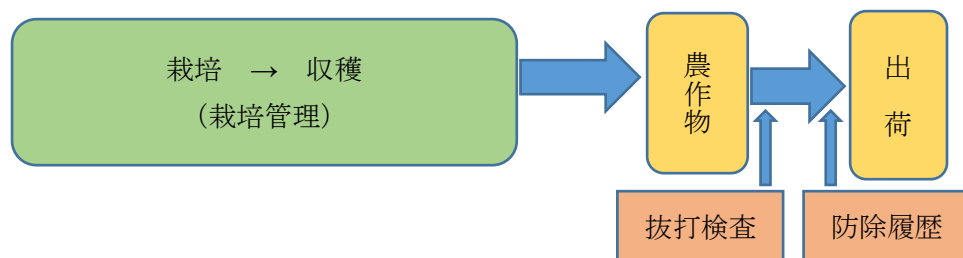
農場内のリスクを減らして

場内に  な取り組みを増やす。

農業生産活動(一次生産)で求められる工程管理

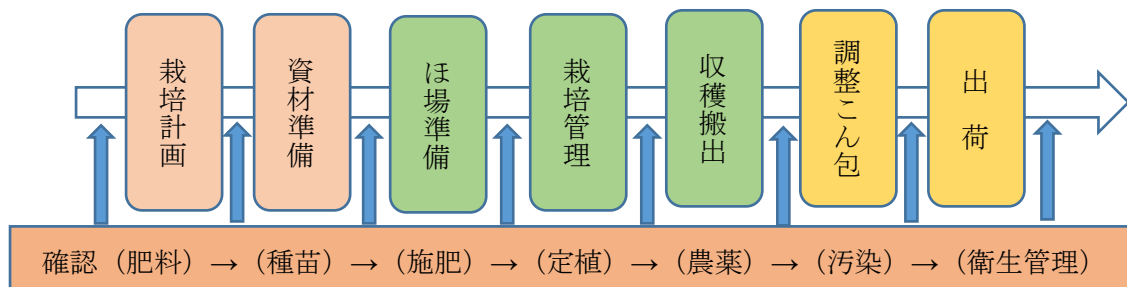
◎結果管理に基づく品質保証(ファイナルチェック方式) ⇒ 従来の管理法

<例>



◎生産工程管理に基づく品質保証(プロセスチェック方式) ⇒ 今後の管理法

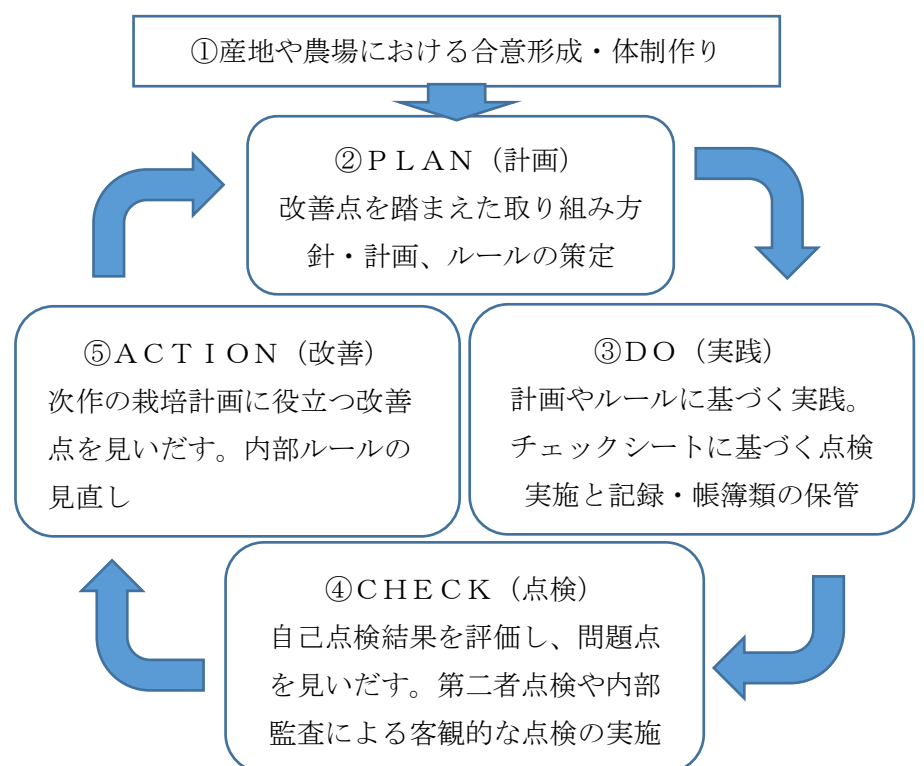
<例>



継続的な改善活動(PDCA)によるGAPの実践

◎GAPチェックシートでは適合基準を満たすよう生産活動を行います。(「ただ〇をつけるだけ」ではGAPの導入意義が薄れてしまいます。)

◎GAPのポイントは適切な時期に点検を行なうことです。正確な点検を行い、さらには集荷団体等からの第2者点検を受けることが大切で、評価・分析に基づく継続的な改善活動によりGAPの導入効果が高まります。



GAPをめぐる情勢

SDGs(持続可能な開発目標)への世界的な関心も高まり、環境保全や人権保護等への配慮が重要な行動規範として浸透されている中でスマート農業などの情報通信技術の導入が進み、ロボット、AI、IoTなどの先端技術が全国的に広く進められております。

GAPの取組が今後広がり、2030年までには国際水準に達する取組が浸透することを目標にGAPを推進しています。

JA山形おきたまのGAPの取り組み

平成30年度より、『山形県版農業生産工程管理(GAP)チェックシート』を活用し、GAPの取組みを開始しました。最初の取組みとして、第三者機関の認証を受けないGAPを実施し、GAPへの取組みの浸透を図りました。

今年度も栽培履歴および農業生産工程管理チェックシート(当面の間、山形県版農業生産工程管理(GAP)生産者用チェックシートを活用。)の提出が必要となります。※面積等の変更がある場合は安全安心協定書の再提出が必要。



やまがたGAP 抜粋 生産者用チェックシート【青果物(果樹・野菜)】

氏名	品目名 (複数品目の場合は全品目を記入ください)	所産地
----	--------------------------	-----

○本シートは、農業生産活動の各工程における「食品安全（農薬適正使用）」に重点をおいて「管理点を把握し、「適合基準（正しいやり方・畑に与える条件）」を作成したものです。
○「記録簿」に「整備」と記載している「適合基準」は記録簿を整備・保管しておく必要が異なります。
○「適合基準」を全て満たすことを目標にして生産活動を行いましよ。

チェックシートの記入方法

『評価欄』には○、×、△、－、を記入します
○：適合基準を満たすように実施できている。 ×：取り組みができていない。
△：取り組んでいるが一部できていない。 －：自分には該当しない項目である。

管理点番号	適合基準	記録簿	評価
4	農薬の使用履歴等の栽培履歴を記録している。	整備	
14	農薬は（農産物取扱い所等と明確に区分された）専用の場所 で保管している。また、開封した農薬の保管は、ごぼれた り、他の農薬容器に付着しないように管理している【法令上 の義務を含む】。	-	
15	防除計画に基づき、農水省登録のある農薬を適正に使用 （【法令上の義務】）するとともに、農薬ラベルの記載事項 を事前に確認してから散布している。 また、使用基準（適用作物、使用回数、使用時期、希釈倍数 または使用量）を厳守している【法令上の義務】。	整備	
16	前作で使用した農薬を把握しており、今作の作物に残留しな いことを確認している。	-	
16	防除器具（ホース含む）が洗浄され、前回散布の農薬が残っ ていない。	-	
16, 24	収穫する作物について、園地外からのドリフトに注意してい る。 また、隣接園地や近隣の住宅地等に配慮した防除を行ってい る【法令上の義務】。	-	
22	農薬の使用残がでないように必要な量だけを調整している。 また、使用後にタンク等を洗浄する場合、ほ場内で適切に処 分し、水路や河川に流入しないようにしている。	-	
23	発生子察情報やほ場の観察により、防除要否や防除時期を判 断している。	-	

やまがたGAP*について

*国際水準GAPガイドライン非準拠

やまがたGAPは、農業生産活動における食品安全 環境保全 労働安全、
人権保護、管理全般（農場経営管理を含む）に関する「管理点」を定めた
ものです（下記項目参照）。
このチェックシートでは、特に重要な「食品安全（農薬適正使用）」を抜
粋しました。「食品安全」に重点的に取組むとともに、いずれは下記項目の
すべてに取組むようにしましよ。
各管理点の「適合基準」等の詳細は右記QRコードを参照ください。



標準様式第4号
やまがたGAP生産者用
チェックシート
【青果物】

1 管理全般
1 農業生産工程管理（GAP）に取り組んでいる
2 登録種苗や技術・ノウハウ（知的財産）を保護、活用している
3 農産物の生産に関する伝票類・収書等を保管している
4 栽培情報・生産資材の使用履歴を記録している
5 帳簿類を整備している
6 GAPの取組みについて外部委託先と合意している
2 食品安全
7 農産物取扱い工程の明確化とリスク評価を行っている
8 ほ場の土の安全性を確認している
9 栽培から出荷まで、安全性が確保された水を使用している
10 肥料等の安全性を確認している
11 肥料の保管管理を適切に行っている
12 肥料を適切に使用している
13 堆肥や有機物を適切に使用している
14 農薬の保管管理を適切に行っている
15 農薬は適切に使用している
16 残留農薬のおそれがない農産物を生産・出荷している
17 仕場やハウス等を衛生的に管理している
18 農作業・収穫・運搬・輸送の工程は衛生的に管理している
19 施設の衛生管理に必要な措置を講じている
20 作業者からの汚染防止の措置を講じている
3 環境保全
21 肥料や堆肥による汚染を防いでいる
22 農薬による汚染を防いでいる
23 化学農薬に過度に依存しない防除法を実践している
24 農薬のドリフト防止対策を行っている
25 周辺環境に配慮した農業生産活動を実践している
26 環境に配慮した農業を実践している
4 労働安全
27 労働安全のリスク評価を行っている
28 適切な服装及び保護具を着用している
29 事故防止のための作業環境整備及び機械作業時の安全対策を講じている
30 事故時・事故後の備えを整えている
5 人権保護
31 労働条件を遵守している
32 雇用や待遇で差別をしていない
33 外国人技能実習生などに快適な住環境を提供している
34 労働者とコミュニケーションをとっている

【問い合わせ先】 県庁農業技術環境課（023-630-2481）、所属集荷団体

令和8年度 JA山形おきたま さくらんぼ 病 害 虫 防 除 基 準 ①

桜桃振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	注意事項
① /	休眠期	-	水 (88%)	※水88%にハーベストオイル20+石灰硫黄合剤10%を希釈する。(合計100%)		400%	○ハーベストオイルの希釈液に石灰硫黄合剤を10倍になるよう混用する。 ○カイガラムシ類の発生が多い場合は、ハーベストオイル50倍を希釈後にアプロードフロアブル1,000倍(7日前/2回以内)を混用し散布する(石灰硫黄合剤は入れない)。 ○休眠期の石灰硫黄合剤散布は樹脂細菌病にも効果がある。 ○耐寒性(凍霜害)強化を期待し、霜・低温の恐れがある場合はアイスバリア333倍を散布する。(散布液がしっかり乾く必要があるため、夕方散布は控える) 【耕種的防除(病害対策)】 ○剪定の切り口には、トップジンMペースト(3回以内)またはバッチレート(3回以内)を原液で塗布する。 ○樹脂細菌病対策として、風当たりが強い園地では、防風ネットを設置する。また、樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を大きめに削り取り、癒合剤を塗布する。 ○灰星病対策として、枯死枝やミ行果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。 【コスカシバ対策】 ○例年、コスカシバの発生が多い園ではフェニックスフロアブル500倍(開花期まで/1回)を枝幹部に十分かかるよう丁寧に散布する。 ※高濃度の幹枝散布は開花期までの1回のみ使用とする。
		カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍(2%)	発芽前	-		
		越冬病害虫類 ハダニ類 カイガラムシ類	石灰硫黄合剤 10倍(10%)	発芽前	-		
② /	佐藤錦の開花直前(風船状の頃)	灰星病、炭そ病、幼果菌核病、炭そ病、褐色せん孔病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	21日前	5回以内(但し、萌芽後は2回以内)	500%	○トレノックスフロアブルに替えて、ICボルドー66D 40倍(発病前~発病初期/-)を散布してもよい。 ○降雨が多く、低温が続く場合は、スミックス水和剤1,500倍(14日前/3回以内)を2~3分咲き時に追加散布する。
		星	訪花昆虫を保護するため、開花1週間前から巣箱を撤去するまで殺虫・殺ダニ剤の散布をしない。 マコバチの増殖は5月中旬まで活発に行われるので、殺虫殺ダニ剤を控える。				
③ /	8分咲き(満開期)	灰星病、炭そ病、褐色せん孔病、黒斑病、幼果菌核病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内	500%	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○灰星病、幼果菌核病防除の重要な時期なので、遅れず散布する。
④ /	落花始め(花びらが褐変し始めたころ)	ハマキムシ類 ケムシ類	バイオマックスDF 2,000倍(50g)	発生初期 但し、前日まで	-	500%	○ハースト顆粒水和剤は、スチューベン、ヒムロト、ハッファローの新葉に波打症状の薬害がでることがあるので、飛散しないように注意する。 ○アオカシカメによる葉や果実の吸汁被害が多い園は、訪花昆虫が活動していない早朝や夕方にウラウDF 2,000倍(前日/2回以内)を加用散布する。 ○乾燥効果による落弁促進のため、ロイヤルリカMG700倍を混用する。 ○今回(落花始め)の散布から次回(5月中下旬)の散布まで間隔があく場合は、オーソサイド水和剤80 1,000倍(3日前/5回以内)を散布する。
		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-		
		灰星病	パスワード顆粒水和剤 1,500倍(66g)	前日	2回以内		
⑤ /	5月中下旬(5月20日頃)	灰星病、炭そ病、褐色せん孔病	オーソサイド水和剤80 800倍(125g)	3日前	5回以内	500%	○コスカシバの発生がみられる園では、スカシバコンL40~100本/10aをこの時期までに設置する。 ○早生種の収穫前防除はこの回までとする。 ○カイガラムシ類の発生が見られる場合は、5月中下旬の防除の前(5月中旬)にトランスフォームフロアブル2,000倍(3日前/3回以内)を単用散布する。
		カイガラムシ類、カメムシ類、オウトウショウジョウバエ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	1回		
		ハダニ類	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回		
⑥ /	6月上旬	灰星病、炭そ病、黒斑病、褐色せん孔病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	3回以内	400%	
オウトウハマダラミバエ、ショウジョウバエ	アディオフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	2回以内				

令和8年度 JA山形おきたま さくらんぼ 病 害 虫 防 除 基 準 ②

桜桃振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	注意事項
⑦ /	6月中旬	灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 黒斑病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内	400% %	○ハダニ類の発生が見られる場合はダニオーテフロアブル2000倍(前日/1回)を散布する。
		重点防除 ・シヨウジョウバエ ・コスカシバ	ハマキムシ類、ケムシ類、オウトウシヨウジョウバエ、コスカシバ	エクシレルSE 2,500倍(40cc)	前日		
⑧ /	6月下旬 ~ 7月上旬	灰星病	インダーフロアブル 5,000倍(20cc)	前日	2回以内	400% %	○収穫が7月以降も続く紅秀峰がメインの園地では、ナリアWDG2,000倍(前日/3回以内)とスタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日/2回以内)を混用して散布する。
		シヨウジョウバエ類、カメムシ類	テルスターフロアブル 3,000倍(33cc)	前日	2回以内		
収穫後は、花芽充実のために病害虫(ハダニ類・せん孔病・炭そ病)防除を徹底する。							
⑨ /	収穫直後	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	500% %	○今後急速にハダニが発生しやすくなる時期なので、散布ムラのないように、十分な量を散布する。 ○収穫が終了しない園地が近くにある場合は、飛散に注意する。 ○これ以降もハダニ類の発生が見られる園地では、ダニゲッターフロアブル2,000倍(前日/1回)を単用散布する。なお、ダニゲッターフロアブルは開花期の水稲(8月上旬頃)に葉害が発生する恐れがあるので、水田に隣接する園地では、水稲の開花期間を避けて散布する。
		褐色せん孔病 炭そ病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	21日前	5回以内(但し、萌芽後は2回以内)		
		ケムシ類	スミチオン水和剤40 800倍(125g)	14日前	2回以内		
		ハダニ類	コロマイト乳剤 1,000倍(100cc)	7日前	1回		
⑩ /	前回散布の10日後(7月下旬)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	500% %	○ナミハダニの発生がみられる場合は、コテツフロアブル2,000倍(7日前/2回以内)を散布する。 ○8月上旬以降、再度ハダニ類の発生が見られる場合には、アカリタツ乳剤2,000倍(前日/—)を単用散布する。また、アカリタツ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。 ○カイガラムシ類の発生が多い場合は8月上旬にアプロードフロアブル1,500倍(7日前/2回以内)を単用散布する。 ○降雨が多い場合や生育が早く防除間隔が空く場合は、オキシンドー水和剤80 1,200倍(収穫終了後~落葉期まで/3回以内)を追加散布する。
		褐色せん孔病	オキシンドー水和剤80 1,200倍(83g)	収穫終了後~落葉期まで	3回以内		
⑪ /	8月中旬	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	-	-	500% %	○コスカシバの発生が見られる園地では、フェニックスフロアブル4,000倍(前日/2回以内)を枝幹部に丁寧に単用散布する。
		褐色せん孔病 樹脂細菌病	ICボルドー66D 40倍(2.5kg)	-	-		
		アブラムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	2回以内		
⑫ /	休眠期	コスカシバ	ガットキラー乳剤 100倍(1,000cc)	休眠期(落葉期~萌芽前)	1回	350% %	○褐色せん孔病が多い園地では、落葉期にICボルドー66D(発病前~発病初期/-) 40倍を散布する。(樹脂細菌病にも適用がある) ○10月下旬~11月上旬に雑草対策としてハスタ液剤(前日/3回以内)またはザクサ液剤(前日/3回以内)を散布する。 ○野鼠対策として根雪前にフジワシ粒剤1樹当たり200gを、樹冠下半径50cmの範囲の土壌と均一に混和する。(使用回数2回以内)

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 J A山形おきたま デラウェア施設栽培 病害虫防除基準① ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量(10a)	注意事項
ブドウトラカミキリ防除は落葉後の秋冬期防除の効果が高い。散布しなかった圃地はクムラス散布前にトラサイドA乳剤300倍(休眠期/2回以内)を散布する。【注意】トラサイドA乳剤は令和8年9月登録失効予定のため、今回限りの使用とする。						
コウモリカ(キクイムシ)対策 → 粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃し、見つけ次第捕殺する。						
① /	休 眠 期	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○春季にトラサイドA乳剤を散布した場合、7~10日間、間隔をあけて散布する。 ○ハダニ・ハモグリダニの多い圃地では必ず散布する。 ○コウモリカ等枝幹害虫対策として、被害がみられる圃地は、萌芽後にガットサイドS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロソフット(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2~10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
		ハダニ類、ブドウハモグリダニ	クムラス 300倍(330g)	休眠期 —		
/	特 別 散 布 (発芽直後)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○カスガムシ類に対する効果も期待される。結果母枝基部の縮芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○スミチオン水和剤40の収穫前使用日数は90日のため注意する。 ○周囲にモミギが自生している場合は、カスガムシ類の繁殖場所となるので除草を徹底する。
		ブドウトラカミキリ、ブドウスキャンパ、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫、クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	90日前まで 2回以内		
② /	第1回ハダニ防除 展 葉 5 ~ 7 枚	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○ハダニ防除にあたっては、散布ムラが出ないように注意し、早めの防除を徹底する。 ○ブドウトラカミキリ対策として、せん定枝は5月下旬までに処分する。 【デラウェア 種子混入防止】 アグレプト液剤/ストマイ液剤20 使用方法 希釈倍数 1,000倍 使用回数 1回 満開予定日の14日前~満開期 花房浸漬 (第1回目ジベレリン処理と併用) フリーテラや例年種子混入がみられる圃地では、第1回目GA液に必ず混用する。 【ジベレリンを効かせる管理】 高温乾燥下ではジベレリンの吸収が劣るので、展葉期から定期的にかん水するとともに極端に乾燥している場合は、ジベ処理当日にかん水をする。処理できない場合は棚面散水を実施し、湿度確保に努める。
		べと病、黒とう病、晩腐病、褐斑病	ベンコゼブフロアブル 1,000倍(100cc)	45日前まで 2回以内		
		アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカスミカメ、ブドウトラカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	14日前まで 3回以内		
		ハダニ類、ブドウサビダニ	マイトコーネフロアブル 1,000倍(100cc)	21日前まで 1回		
③ /	灰かび重点防除 開 花 直 前	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○スイッチ顆粒水和剤は桜桃の葉に薬害を生じるので、近隣に桜桃がある場合は注意する。 ○開花期前後は、灰色かび病にかかりやすい時期なので、ハウス内が多湿にならないよう換気を徹底する。 ○害虫の発生が早い場合は、7デイトン水和剤2,000倍(7日前/5回)を加用散布する。 灰色かび病など様々な病害虫の重点防除時期となるので、防除タイミングを逃さず薬液を十分量散布する。
		灰色かび病、晩腐病	スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g)	30日前まで 2回以内		
④ /	灰かび重点防除 第2回ハダニ防除 落 花 直 後 (花かすが残っている時期で2回目ジベ処理前まで)	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病、褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	14日前まで 3回以内	200%	○ハウス谷間部の果房は6月上旬までかさかけを行う。 ○カイガラムシ類の発生が見られる場合はアブロードフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。ただし、散布が遅くなると果粉溶脱が懸念されるので、散布時期は小豆粒大までとする。 ○花かす取り作業軽減のため、ロイヤルシカMG700倍またはシキョーゼオ1,000倍を加用散布する。 ○コロマイト水和剤は果粉溶脱が懸念されるため、遅れないで散布する。また、ダニ剤はこのタイミングで必ず散布する。 加温ハウスは過湿により、灰色かび病が発生しやすい。落花直後の防除以降、天候不順等により灰色かび病の発生が懸念される場合にはインダーフロアブル8,000倍(30日前/3回以内)を散布する。散布時期によっては果粉溶脱が懸念されるため、スラン噴口を使用し、散布量にも注意する。
		ハスモンヨトウ、ブドウサビダニ、チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ	グレーシアフロアブル 4,000倍(25cc)	7日前まで 2回以内		
		ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	7日前まで 2回以内		

令和8年度 J A 山形おきたま デラウェア施設栽培 病虫害防除基準② ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病虫害	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100ℓ)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量(10a)	注意事項
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛散にも十分注意！ ★						
/	着色期前 特別散布	灰色かび病、褐斑病、うどんこ病、黒とう病、晩腐病、すす点病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 3回以内	100~150ℓ	○スラン噴口を使用し果粉溶脱に十分注意する。 ○モンキクロメイが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。棚下散布は、果粉溶脱が懸念されるので、スラン噴口を使用する。 ○晩腐病の発病果は見つけたい摘み取り、適切に処分する。
		フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、コガネムシ類、コナカイガラムシ類、カメムシ類	ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで 3回以内		
/	着色期前 特別散布	ハダニ類、ブドウヒメハダニ	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 1回	100~150ℓ	○ハダニが多発すると、種枝の登熟が劣ったり、貯蔵養分蓄積に悪影響があるので、ハダニの発生が心配される場合は、この回の防除を確実に行う。散布においては果粉溶脱に注意する。
⑤ /	収穫後	べと病 さび病 ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫、クワコナカイガラムシ	ICボルドー66D 50倍(2kg) スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	発病前~ 発病初期 90日前まで 2回以内	300ℓ	○モンキクロメイが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から加用する。 ○ハダニ類、ブドウサビダニの発生が見られる場合には、ダントツフロアブル2,000倍(30日前/1回)を単用で散布する。 ○被覆したままの状態では、棚面の上下から十分量を散布し、枝幹害虫防除のため、主幹にも薬液がしっかりかかるようにする。また、高温時期の散布は葉害の恐れがあるため、時期をずらして散布する。 ○収穫後、降雨が多い場合は、8月下旬~9月上旬にICボルドー66D(発病前~発病初期/-)50倍を追加散布する。
⑥ /	休眠期	展着剤 ブドウトラカミキリ	アプローチBI 1,000倍(100g) ガットキラー乳剤 100倍(1,000cc)	— 休眠期(落葉後~萌芽前) 2回以内	200ℓ	○房の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○スミチオン水和剤40、ガットキラー乳剤、ガットサイトSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。
【注意】デラウェアに使用できないか、使用に注意が必要な農薬						
ぶどうで使用ができなくなった農薬→ (ぶどうの登録削除)		ジェイエース水溶剤(オルトランを含む農薬)		近年、登録が変更された農薬→		コテツフロアブル(収穫前日数14日前→60日前)、 ダントツフロアブル(収穫前日数14日前→30日前)
デラウェアで使用できない農薬→ (大粒ぶどうのみの登録)		ダイアジノン水和剤34、バイスロイドEW、アディオンフロアブル、ピラニカ水和剤、カンタスドライフロアブル、ナリアWDG				
着色障害防止に肥料用硫酸マンガ				CX-10の使用		
使用方法及び時期		○ 第2回ジベレリン処理時に混用の場合 硫酸マンガ 14.5cc / ジベレリン液2ℓ ○ 満開20日後の棚面散布の場合 硫酸マンガ 365cc / 水 100ℓ		○休眠打破、萌芽促進、発芽率向上(発芽揃い)に効果がみられる。 ○処理時期は、例年11月中下旬以降。積雪により処理できなかった場合でも水揚げ前までに処理すると、発芽を揃える効果はある。(生育促進効果は劣る) ○処理にあたっては、種枝(芽、葉柄痕、節間)にたっぷり散布する。再処理や重複散布はしない。 ○倍数 20倍 ○散布量の目安: 150ℓ/10a ○展着剤加用 ハイテンパワー 10,000倍		

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 JA山形おきたま デラウエア露地栽培 病害虫防除基準 ① ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量(10a)	注意事項
① /	休眠期	展着剤	アブローチBI 1,000倍(100cc)	—	200 ^{リットル}	【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM剤(ケッター水和剤)とベンレート剤(ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。 【注意】 トラサイドA乳剤は令和8年9月登録失効予定のため、今回限りの使用とする。 ○カイガラムシ類やカスミカムシ類が見られる園では、粗皮削りを必須作業とし、休眠期防除前までに終わらせる。 ○前年の房の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○周囲に訪花昆虫の巣箱がある場合には秋処理とする。
		晩腐病 黒とう病	ベンレート水和剤 500倍(200g)	休眠期 1回		
		ブドウトラカミキリ	トラサイドA乳剤 300倍(330cc)	発芽前(休眠期) 2回以内		
コウモリカ(キクイムシ)対策 → 粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃し、見つけ次第捕殺する。						
② /	休眠期 (前回散布の7~10日後)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 ^{リットル}	○ハダニ・ハモグリダニの多い園では必ず散布する。 ○コウモリカ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にカットサイトS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロソフド(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2~10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
		ハダニ類、ブドウハモグリダニ	クムラス 300倍(330g)	休眠期 —		
枝かけ具の取付け(晩腐病発生の多い園は100%実施) → 休眠期~5葉期まではかけ終わる事。風等でずれた場合は随時手直しをする。						
③ /	発芽直後	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 ^{リットル}	○カスミカムシ類に対する効果が期待される。結果母枝基部の綿芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○周囲にヨモギが自生している場合は、カスミカムシ類の繁殖場所となるので除草を徹底する。 ○スミチオン水和剤40の収穫前使用日数は90日のため注意する。
		ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫、クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	90日前まで 2回以内		
④ /	展葉5~7枚	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200 ^{リットル}	○ブドウトラカミキリ対策として、せん定枝は5月下旬までに処分する。 【デラウエア 種子混入防止】 アグレプト液剤/ストマイ液剤20 使用方法 希釈倍数 1,000倍 使用回数 1回 満開予定日の14日前~満開期 花房浸漬 (第1回目ジベレリン処理と併用) フリーテラや例年種子混入がみられる園地では、第1回目GA液に必ず混用する。
		べと病、黒とう病、晩腐病、褐斑病	ペンコゼブフロアブル 1,000倍(100cc)	45日前まで 2回以内		
		アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカスミカメ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	14日前まで 3回以内		
⑤ /	開花直前 (第1回ジベ処理後)	べと病、さび病、晩腐病	ICボルドー66D 50倍(2kg)	発病前~ 発病初期	200 ^{リットル}	【ジベレリンを効かせる管理】 高温乾燥下ではジベレリンの吸収が劣るので、展葉期から定期的にかん水するとともに極端に乾燥している場合は、ジベ処理当日にかん水をする。処理できない場合は棚面散水を実施し、湿度確保に努める。 ○カイガラムシ類の発生が見られる園は、アブロードフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。果粉溶解に注意する。
		ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	7日前まで 2回以内		

令和8年度 J A山形おきたま デラウエア露地栽培 病害虫防除基準 ② ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量(10a)	注意事項
第2回 ジベ処理 前後		晩腐病対策のためパラソルかけ100%実施				
		1.かさかけと結果母枝への枝かけ具の併用は更に効果が高い。		3.かさかけが遅れると効果が劣る。		
		2.かさかけは雨漏りを防ぐため果軸に密着するよう丁寧に。		4.かさかけは6月中旬まで終了する。		
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛散にも十分注意！ ★						
⑥ /	落花直後～ (花かすが残っている時期で2回目ジベ処理前まで)	灰色かび病、晩腐病、褐斑病、黒とう病、さび病、すす点病、うどんこ病 べと病 フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、コガネムシ類、コナカイガラムシ類、カメムシ類	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc) ベトファイター顆粒水和剤 3,000倍(33g) ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで 3回以内 30日前まで 3回以内 前日まで 3回以内	200リットル	べと病防除対策 ○発生が懸念される場合は、天気予報等に注意し予防防除を徹底する。 ○葉裏の気孔からの侵入を防ぐ目的で十分に散布する。 ○同一成分の薬剤の連用は避ける。 ○降雨が続く場合は、エトフィンフロアブル1,000倍(7日前/4回以内)を追加散布する。 ○モンキクロメイガが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。棚下散布は、果粉溶脱が懸念されるので、スラン噴口を使用する。
⑦ /	7月上旬	べと病、さび病	棚上散布 ICボルドー66D 50倍(2kg)	発病前～ 発病初期	250リットル	○散布時期が遅れないよう、適期防除に努める。 ○ハダニ類の発生がみられる園地では、タニコングフロアブル2,000倍(前日/1回)を単用散布する。
⑧ /	7月中旬	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病、褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	14日前まで 3回以内	150リットル	○果粉溶脱の恐れがあるので、倍数を厳守し十分攪拌後、重複しないようスラン噴口等を使用し散布する。 ○フタテンヒメヨコバイの発生が多い園地は、ダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○晩腐病の発病果は見つけたい摘み取り、適切に処分する。
⑨ /	7月下旬	べと病、さび病	棚上散布 ICボルドー66D 50倍(2kg)	発病前～ 発病初期	250リットル	○冷蔵庫で貯蔵する園地では、灰色かび病対策として、収穫前にオンリーワンフロアブル 2,000倍(前日/3回以内)を果粉溶脱に注意し単用散布する。
⑩ /	収穫直後	べと病、さび病 ブドウトラカミキリ、コガネムシ類成虫、ブドウスカシバ、クワコナカイガラムシ、フタテンヒメヨコバイ	ICボルドー66D 50倍(2kg) スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	発病前～ 発病初期 90日前まで 2回以内	300リットル	○モンキクロメイガが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から加用する。 ○散布量を増やし、棚面上下から十分散布する。 ○スミチオン水和剤40、トラサイドA乳剤、カットサイドSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。 ○スカンハ等の枝幹害虫対策は、薬液が主幹に十分かかるようにする。
着色障害防止に肥料用硫酸マンガンを ○ 第2回ジベ処理液に混用の場合 硫酸マンガンを14.5cc / ジベ液2リットル ○ 満開20日後の棚面散布の場合 硫酸マンガンを365cc / 水 100リットル			ブドウサビダニ被害の特徴 ○葉の表面の葉脈付近に生息し、虫がネ等で確認できない。 ○先端の若葉よりも成葉に被害が多い。 ○葉脈にそって黒褐色になり、被害が進行すると葉全体が変色し葉緑から枯込む。			

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 J A山形おきたま 大粒種（施設高尾・ヒ・オナー・安芸Queen等）病害虫防除基準 ① 大粒ぶどう振興部会

散布月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注意事項
ブドウトラカミキリ防除は落葉後の秋冬期防除の効果が高い。散布しなかった園地は、クムラス散布前にトラサイドA乳剤300倍(休眠期/2回以内)を散布する。【注意】トラサイドA乳剤は令和8年9月登録失効予定のため、今回限りの使用とする。						
クビアカスカシバ・コウモリガ・ブドウスカシバ・キクイムシの被害が増えている。粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃するなどの耕種防除を行うとともに、見つけ次第捕殺する。						
① / 休 眠 期		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○発芽後に被覆する園地では、晩腐病対策として、クムラス散布前にベンレート水和剤500倍(休眠期/1回)を散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM剤(ゲッター水和剤)とベンレート剤(ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。 ○春季にトラサイドA乳剤を散布した場合はクムラスと7~10日間、間隔をあけて散布する。 ○ハダニ・ハモグリガニの多い園地では必ず散布する。 ○コウモリガ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にガツサイドS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。 ○カキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロビンフッド(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2~10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。
		ハダニ類、ブドウハモグリガニ	クムラス 300倍(330g)	休眠期 —		
/ 特 別 散 布 (発 芽 直 後)		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○カスカムシ類に対する効果も期待され、カスカムシの被害が多い園地では必ず散布する。結果母枝基部の繭芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。 ○周囲にヨモギが自生している場合は、カスカムシ類の繁殖場所となるので除草を徹底する。 ○黒とう病の発生が懸念される場合は、展葉初期にテラフロアブル1,000倍(落弁期まで、但し、収穫75日前まで/2回以内)を散布する。
		ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、フタテヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫、クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	21日前まで 2回以内		
② / 展 葉 5 ~ 7 枚		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○無種子化処理が必要な品種は、満開予定日の14日前頃を目途にアグレット液剤またはストマイ液剤20,000倍を散布する。処理が遅れると種子混入を防止する効果が低下するので、生育の早い新梢で展葉9枚頃を目安に実施する。また、かけムラがないようにしっかり散布する。 ○満開時の散布は避ける。果実に発生したサビは、実割れの原因になるので注意する。 ○開花期前後は、灰色かび病にかかりやすい時期なので、ハウス内が多湿にならないよう換気を徹底する。 ○スイッチ顆粒水和剤は桜桃の葉に薬害を生じるので、近隣に桜桃がある場合は注意する。 ○頻繁にうどんこ病が発生する園地では、インナーフロアブル8,000倍(30日前/3回以内)を散布する。
		べと病、黒とう病、晩腐病、うどんこ病、灰色かび病	テーク水和剤 1,000倍(100g)	45日前まで 2回以内		
		アザミウマ類、フタテヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカシカメ	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	14日前まで 3回以内		
		ハダニ類 ブドウサビダニ	マイトコーネフロアブル 1,000倍(100cc)	21日前まで 1回		
③ / 【灰かび重点防除】 開 花 直 前 6 月 上 旬		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	【クビアカスカシバ対策】 ○成虫の発生時期となるので、飛来防止のため防風ネット(4mm)で施設全体を囲う。 ○最重要防除時期は6月~8月上旬。効果のある薬剤を定期的に散布する。 ○幼虫の枝幹部への食入時(樹皮を食害時)に効果がでるように枝幹部に十分かかるように散布する。 ○被害が多い園地では、前回散布2週間後にハダシSG水溶剤1,500倍(14日前/2回以内)またはフェニックスフロアブル4,000倍(14日前/2回以内)を枝幹にしっかり散布する。 ○主幹の地際周りを除草するとともに、樹上の食入箇所を定期的にチェックし捕殺する。また、食入孔の虫糞を取り除き、ロビンフッド(前日/5回以内)のノズルを差し込み噴射する。さらに、一度食入した箇所を再度加害する傾向があるので、目印を付けて確認するようにする。
		灰色かび病、晩腐病	スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g)	30日前まで 2回以内		
		チャノキイロアザミウマ、フタテヒメヨコバイ、スキャンパ類	バダシSG水溶剤 1,500倍(66g)	14日前まで 2回以内		
④ / 【灰かび重点防除】 落 花 直 後 【アザミウマ類重点防除】		展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	200%	○カイガラムシ類の発生が見られる場合はアプロードフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。ただし、散布が遅くなると果粉溶脱が懸念されるので、散布時期は小豆粒大までとする。 ○例年すす点病が発生する園地では、房の上下からしっかり散布する。 ○べと病の発生が懸念される場合は、ベトファイター顆粒水和剤3,000倍(30日前/3回以内)を散布する。 ○降雨が続く場合は、エトインフロアブル1,000倍(7日前/4回以内)を追加散布する。
		晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 3回以内		
		ハスモンヨトウ、ブドウサビダニ、チャノキイロアザミウマ、フタテヒメヨコバイ	グレースシアフロアブル 4,000倍(25cc)	7日前まで 2回以内		
		ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	7日前まで 2回以内		

令和8年度 J A山形おきたま 大粒種（施設高尾・ピオーネ・安芸Queen等）病害虫防除基準 ② 大粒ぶどう振興部会

散布月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注意事項
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛散にも十分注意！ ★						
⑤ /	7月上旬 【アザミウマ重点防除】	灰色かび病、黒とう病、さび病、褐斑病、うどんこ病 ケムシ類、コガネムシ類、カメムシ類、チャノキイロアザミウマ、クビアカスカシバ、ハマキムシ類 ハダニ類、ブドウヒメハダニ	パレード15フロアブル 2,000倍(50cc) テツパン液剤 2,000倍(50cc) ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	7日前まで 2回以内 前日まで 2回以内 前日まで 1回	200%	○モンクロナメイカ、クビアカスカシバが見られる園地では、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。 ○晩腐病の発生が多い場合は、パレード15フロアブルに代えてセイビアフロアブル20 2,000倍(21日前/3回)を加用し散布する。 ○その後の気温経過により灰色かび病の発生が見られる場合には、ストロベードライフロアブル3,000倍(14日前/3回以内)を散布する。散布時期によっては果粉溶脱が懸念されるため、スラン噴口を使用し、散布量にも注意する。
⑥ /	7月中下旬	晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病 フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、コガネムシ類、コナカイガラムシ類、カメムシ類	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc) ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで 3回以内 前日まで 3回以内	150%	
8 /	特別散布 8月中 ~ 8月下旬	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病、褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	14日前まで 3回以内	150%	○チャノキイロアザミウマやフタテンヒメヨコバイの発生が見られる場合はモスヒラン顆粒水溶剤2,000倍(14日前/3回以内)を加用し散布する。 ○裂果・腐敗果等は、見つけ次第除去する。
⑦ /	収穫直後	べと病、さび病 ブドウトラカミキリ、ブドウアザミウマ、コガネムシ類成虫、フタテンヒメヨコバイ、クワコナカイガラムシ	ICポルドー66D 50倍(2kg) スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	発病前~ 発病初期 21日前まで 2回以内	300%	○ハダニ類、ブドウサビダニの発生が見られる場合には、ダニコングフロアブル2,000倍(30日前/1回)を散布する。(サビダニは葉表にもかかるように散布する。) ○副梢に結実した果房は早期に除去する。 ○収穫後、遅れないように棚面の上下から十分量を散布し、枝幹害虫防除のため、主幹にも薬液がしっかりとかかるようにする。
⑧ /	休眠期	展着剤 ブドウトラカミキリ	アブローチBI 100倍(1,000cc) ガットキラー乳剤 100倍(1,000cc)	— 休眠期(落葉後~萌芽前) 2回以内	200%	○晩腐病、黒とう病等防除のため、軸の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○スミチオン水和剤40、ガットキラー乳剤、ガットサイトSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。

フラスター液剤の使用法 ※大粒ぶどうのみ抜粋 ☆樹勢の弱い園地・樹では使用しない☆

品種名	使用目的	使用時期	倍数	散布量ℓ/10a	総使用回数	品種名	使用目的	使用時期	倍数	散布量ℓ/10a	総使用回数
巨峰 露地 施設 巨峰系4倍体品種 (巨峰、ピオーネを除く) 2倍体米国系品種 3倍体品種 (ナガノパールを除く) 2倍体欧州系品種 (シャインマスカットを除く)	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	1,000	300	2回以内	ナガノパール	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	500~800	100~150	2回以内
			500~800	100~150				新梢伸長抑制	満開10~20日後 但し、収穫60日前まで	500	
			1,000~2,000				着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	500~800	100~150	
								新梢伸長抑制	満開10~20日後 但し、収穫60日前まで	500 1,000	
						シャインマスカット	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	1,000~2,000	100~150	
								満開10~20日後 但し、収穫60日前まで	500 1,000	150 300	

アブサップ液剤の使用法

品種名	使用目的	使用濃度/ 希釈倍数(倍)	使用液量/ 使用料	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
ぶどう(巨峰系4倍体品種)	着色促進	100~200	1果房当り 2~10mL	着色始期~着色開始2週間後	1回 アブジシン酸:1回	果房散布

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 J A山形おきたま 大粒種（施設シャインスカット等晩生種） 病害虫防除基準 ① 大粒ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注意事項
<p>ブドウトラカミキリ防除は落葉後の秋冬期防除の効果が高い。散布しなかった園地は、クムラス散布前にトラサイドA乳剤300倍(休眠期/2回以内)を散布する。【注意】トラサイドA乳剤は令和8年9月登録失効予定のため、今回限りの使用とする。</p> <p>クビアカスカシバ・コウモリガ・ブドウスカシバ・キクイムシの被害が増えている。粗皮剥ぎや樹幹の周囲を清掃するなどの耕種的防除を行なうとともに見つけ次第捕殺する。</p>						
① /	休眠期	展着剤 ハダニ類、ブドウハモグリダニ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) クムラス 300倍(330g)	— 休眠期 —	200%	<p>○発芽後に被覆する園地では、晩腐病対策として、クムラス散布前にベント水和剤500倍(休眠期/1回)を散布する。</p> <p>【注意】栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM剤(ケッター水和剤)とベント剤(ベント水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。</p> <p>○春季にトラサイドA乳剤を散布した場合はクムラスと7~10日間、間隔をあける。</p> <p>○ハダニ・ハモグリダニの多い園地では必ず散布する。</p> <p>○コウモリガ等枝幹害虫対策として、被害がみられる園地は、萌芽後にガッサイドS1.5倍液(21日前/2回以内)を主幹部に塗布する。キクイムシ類に対する効果も期待できる。</p> <p>○カキリムシ類(枝幹害虫)対策として、加害(食入孔)がみられる場合はロビンフッド(前日/5回以内)を使用する。食入孔に専用ノズル先端を差し込み、薬液が食入孔から逆流するまで2~10秒間噴射しながら押し込むことにより、ノズルが詰まらず樹内の殺虫効果が安定する。</p>
/	特別散布 (発芽直後)	展着剤 ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫、クワコナカイガラムシ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	— 21日前まで 2回以内	200%	<p>○カスカムシ類に対する効果も期待され、カスカムシの被害が多い園地では必ず散布する。結果母枝基部の綿芽がほぐれ、薄い緑色部分が見え始めた時が防除適期なので、防除が遅れないようにする。また、棚の上下から丁寧に散布する。</p> <p>○周囲にヨモギが自生している場合は、カスカムシ類の繁殖の原因になるので除草を徹底する。</p> <p>○黒とう病の発生が懸念される場合は、展葉初期にテラフロアブル1,000倍(落弁期まで、但し、収穫75日前まで/2回以内)を散布する。</p>
② /	展葉 5~7枚	展着剤 べと病、黒とう病、晩腐病、うどんこ病、灰色かび病 アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ、カイガラムシ類、ツマグロアオカスカミカメ ハダニ類 ブドウサビダニ	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) テーク水和剤 1,000倍(100g) モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g) マイトコーネフロアブル 1,000倍(100cc)	— 45日前まで 2回以内 14日前まで 3回以内 21日前まで 1回	200%	<p>○シャインスカットは無種子化処理が必要な品種であるため、満開予定日の14日前頃を目途に、アグレット液剤またはスマイ液剤20,000倍を散布する。処理が遅れると種子混入を防止する効果が低下するので、生育の早い新梢で展葉9枚頃を目安に実施する。また、かけムラがないようにしっかりと散布する。</p>
③ /	【灰かび重点防除】 開花直前 6月上旬	展着剤 灰色かび病、晩腐病 チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ、スカシバ類	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) スイッチ顆粒水和剤 2,000倍(50g) パダンSG水溶剤 1,500倍(66g)	— 30日前まで 2回以内 14日前まで 2回以内	200%	<p>○満開時の散布は避ける。果実に発生したサビは実割れの原因になるので注意する。</p> <p>○開花期前後は、灰色かび病にかかりやすい時期なので、ハウス内が多湿にならないよう換気を徹底する。</p> <p>○スイッチ顆粒水和剤は桜桃の葉に薬害を生じるので、近隣に桜桃がある場合は注意する。</p> <p>○頻繁にうどんこ病が発生する園地では、インダーフロアブル8,000倍(30日前/3回以内)を散布する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【クビアカスカシバ対策】</p> <p>○成虫の発生時期となるので、飛来防止のため防風ネット(4mm)で施設全体を囲う。</p> <p>○最重点防除時期は6月~8月上旬。効果のある薬剤を定期的に散布する。</p> <p>○幼虫の枝幹部への食入時(樹皮を食害時)に効果ができるように枝幹部に十分かかるように散布する。</p> <p>○被害が多い園地では、前回散布2週間後にパダンSG水溶剤1,500倍(14日前/2回以内)またはフェニックスフロアブル4,000倍(14日前/2回以内)を枝幹にしっかりと散布する。</p> <p>○主幹の地際周りを除草するとともに、樹上の食入箇所を定期的にチェックし捕殺する。また、食入孔の虫糞を取り除き、ロビンフッド(前日/5回以内)のノズルを差し込み噴射する。さらに、一度食入した箇所を再度加害する傾向があるので、目印を付けて確認するようにする。</p> </div>
④ /	【灰かび重点防除】 落花直後 (シャインスカット第1 回目ジベ処理後) 【アザミウマ類重点防除】	展着剤 晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病 ハスモンヨトウ、ブドウサビダニ、チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ ハダニ類	ハイテンパワー 10,000倍(10cc) オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc) グレーシアフロアブル 4,000倍(25cc) コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	— 前日まで 3回以内 7日まで 2回以内 7日前まで 2回以内	200%	<p>○落花直後の防除実施後、7月上旬の防除までの間隔が1週間以上空く場合は、ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(14日前/3回以内)を追加散布する。</p> <p>○カイガラムシ類の発生が見られる場合はアブロードフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を単用散布する。ただし、散布が遅くなると果粉溶脱が懸念されるので、散布時期は小豆粒大までとする。</p>

令和8年度 JA山形おきたま 大粒種（施設シャインスカット等晩生種） 病害虫防除基準 ② 大粒ぶどう振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名・混用順序・倍数 (薬量/水100%)	収穫前使用時期 総使用回数	散布量 (10a)	注意事項
これ以降の防除は汚染や果粉溶脱に注意 【散布量】【希釈倍数】【噴口・噴板】を再点検！！ ★ 飛散にも十分注意！！ ★						
⑤ /	7 月 上 旬 【アザミウマ類重点防除】	黒とう病、さび病、灰色かび病、褐斑病、うどんこ病	パレード15フロアブル 2,000倍(50cc)	7日前まで 2回以内	200%	○晩腐病の発生が多い場合は、パレード15フロアブルに代えてセトアフロアブル20,000倍(21日前/3回以内)を加用し散布する。 ダニ剤の有効な使用方法 ①同一成分の薬剤は連用しない。 ②支柱の部分等の初期発生を見逃さない。 ○モンキクロノメカ、クビアスカシバが見られる圃地では、サムコフロアブル10,000倍(前日/3回以内)を棚の上下から散布する。 【簡易雨よけ ベと病梅雨期防除の実施】 ○べと病の発生が懸念される場合は、ペトファイター顆粒水和剤3,000倍(30日前/3回以内)を散布する。 ○降雨が続く場合は、エトフィンフロアブル1,000倍(7日前/4回以内)を追加散布する。 【多湿条件下での病害対策】 梅雨期におけるハウス内の多湿条件下での灰色かび病等の対策として、7月中旬にファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(14日前/3回)を散布する。
		ケムシ類、コガネムシ類、カメムシ類、チャノキイロアザミウマ、クビアスカシバ、ハマキムシ類	テツパン液剤 2,000倍(50cc)	前日まで 2回以内		
		ハダニ類、ブドウヒメハダニ	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 1回		
⑥ /	7 月 下 旬	晩腐病、黒とう病、さび病、灰色かび病、うどんこ病、すす点病、褐斑病	オンリーワンフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 3回以内	200%	
		フタテンヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、コガネムシ類、コナカイガラムシ類、カメムシ類	ダントツ水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで 3回以内		
⑦ /	8 月 中 旬 (袋かけ後)	灰色かび病、晩腐病、黒とう病、さび病、褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33g)	14日前まで 3回以内	200%	○チャノキイロアザミウマやフタテンヒメヨコバイの発生が見られる場合はモスヒラン顆粒水溶剤2,000倍(14日前/3回以内)を加用し散布する。
⑧ /	8 月 下 旬 (ロザリオビアンコ)	黒とう病、灰色かび病、うどんこ病、褐斑病	オーシャインフロアブル 2,000倍(50cc)	7日前まで 2回以内	150%	○ロザリオビアンコ等、収穫が遅い品種のみ散布する。 ○果実汚染に注意し散布する。 ○裂果・腐敗果等は、見つけ次第除去する。
⑧ /	収 穫 直 後	べと病、さび病	ICポルドー66D 50倍(2kg)	発病前～ 発病初期	300%	○ハダニ類、ブドウサビダニの発生が見られる場合には、ダニコフロアブル2,000倍(30日前/1回)を散布する。(サビダニは葉表にもかかるように散布する。) ○副梢に結実した果房は早期に除去する。 ○収穫後、遅れないように棚面の上下から十分量を散布し、枝幹害虫防除のため、主幹にも薬液がしっかりとかかるようにする。
		コガネムシ類成虫、ブドウトラカミキリ、ブドウスカシバ、フタテンヒメヨコバイ、クワコナカイガラムシ	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	21日前まで 2回以内		
⑨ /	休 眠 期	展着剤	アブローチBI 100倍(1,000cc)	—	200%	○晩腐病、黒とう病等防除のため、軸の取り残し部分や巻きひげ、結果母枝の枯死部分等は除去する。 ○スミチオン水和剤40、カットキラー乳剤、カットサイトSは、同一成分を含み、総使用回数4回以内(但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)とする。
		ブドウトラカミキリ	ガットキラー乳剤 100倍(1,000cc)	休眠期 (落葉後～萌芽前) 2回以内		

灰色かび病・べと病・すす点病・うどんこ病対策について

1. 予防散布が基本であるので、生育初期～水回り期までの、薬量を多く散布できる期間が防除のポイントとなるので、かけむらのないように徹底して行う。
2. 灰色かび病は、花穂や穂軸・葉・幼果・熟果に発病する。特に、開花期前後及び幼果期が防除のポイントとなる。(薬量多く)開花期前後のハウス内の湿度が高いと、突発的に発病することがあるので、適宜、換気を行いハウス内が過湿にならないようにする。
3. べと病は開花期から幼果期にかけて、雨水によって葉・幼果等に感染するので、5月中下旬及び開花期以降10日間隔で定期的に防除する。
4. すす点病は、5月上～中旬頃から分生子が風で飛散感染し、果粉を栄養源として増殖する。7月中旬から果粒での病斑が見られ二次伝染源となる。幼果期の通風・換気を十分に行い落花後から7月中下旬までに、散布間隔があかないよう防除を行う。
5. うどんこ病は、分生子が風で飛散感染し、開花期～幼果期に発生が見られる。とくに冷涼少雨条件下で多発する。発芽前以降～幼果期ごろまで散布間隔があかないよう効果のある農業を散布する。

CX-10(シアナミド10%)の使用方法

- 休眠打破、萌芽促進、発芽率向上(発芽揃い)に効果が期待されるので、発芽の不揃いな品種には有効。
- 処理時期は、デラウェアは11月中下旬頃～、シャインスカット12月上中旬頃～、ロザリオビアンコは12月中下旬頃～が目安。但し、低温遭遇時間が少ない場合は、処理時期を遅らせる。処理が遅れても水揚げ前までに処理すると発芽を揃える効果がある。
- 処理にあたっては、種枝(芽、葉柄痕、節間)にたっぷり散布し、再処理や重複散布を避ける。
- 使用倍数: 10～20倍(1回以内)または15～20倍(2回以内) 散布量の目安: 150%/10a ※倍数および散布量は品種等により調整する。
- 展着剤使用 ハイテンパワー10,000倍

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 JA山形おきたま りんご(ノボルト-体系) 病害虫防除基準 ① りんご振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用回数	総使用回数	散布量(10a)	葉面散布肥料資材	注意事項
① /	発芽直前 腐らん病必須防除	-	水 (88%)	※水88%にハーベストオイル20+石灰硫黄合剤10gを希釈する。(合計100g)				◆注意◆「オキシドール水和剤80」「オキシ水和剤」が令和8年(2026)春に登録内容が変更される予定です。防除には変更後の内容を反映し記載しております。ご使用、ご注文の際は十分ご注意ください。 ○薬剤散布前に粗皮削りを行い、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。 ○リンゴハダニおよびツルカビカビ類の越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○降雪の遅い地域では、発芽期から展葉期にハーベストオイル200倍(発芽後3週間まで-)を散布する。なお、腐らん病の発生が懸念される場合は、トップジンM水和剤1,000倍(前日、6回以内)を加用し散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM水剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布剤は除く。
		ハダニ類、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍 (2%)	発芽前	-		300%	
② /	展葉初期 (4月中旬) [花そう葉が2~3枚展葉した頃]	黒星病	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	-	-			○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒星病の発生が多い場合は、トレノックスフロアブルに代えてICボルト-412 30倍(-/-)を散布する。ただし、ハーベストオイル等マシン油乳剤の散布後は、2~3日以上経過してからICボルト-412を散布する(マシン油乳剤の効果低下の防止)。 ○前年、黒星病の発生が多かった園地では、間隔があかないよう展葉10日後の防除を必ず実施する。 ○黒星病の発生が多い場合は、ストライト顆粒水和剤に代えてICボルト-412 30倍(-/-)を散布する。
		葉斑病	トレノックスフロアブル 500倍 (200cc)	30日前	5回以内	400%		
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、リンゴワタムシ	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g)	前日	3回以内			
③ /	展葉10日後	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	-	-			○前年、黒星病の発生が多かった園地では、間隔があかないよう展葉10日後の防除を必ず実施する。 ○黒星病の発生が多い場合は、ストライト顆粒水和剤に代えてICボルト-412 30倍(-/-)を散布する。
		黒星病、モニリア病	ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花前まで	2回以内	400%		
		カイガラムシ類幼虫	アブロードフロアブル 1,500倍 (66cc)	30日前	2回以内			
④ /	開花直前 (4月下旬)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	-	-			○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○モニリア病対策として、発病した葉や花、花そうは摘み取り、適切に処分する。
		赤星病、うどんこ病、褐斑病、黒星病、黒点病、モニリア病、斑点落葉病	カナメフロアブル 4,000倍 (25cc)	前日	3回以内	400%		
		黒星病、赤星病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、炭そ病	ベンコゼブ水和剤 600倍 (166g)	30日前	3回以内			
⑤ /	落花直後 中心花が7~8割落花 (5月上旬)	ハマキムシ類、ケムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ	フェニックスフロアブル 5,000倍 (20cc)	前日	2回以内			○ウララDFは訪花昆虫に対する影響が少ない。 ○近年、リンゴワタムシの発生が増加傾向なので、散布ムラがないよう、樹幹全体に満遍なく散布する。 ○黒星病が多い園地では、落花10日後にアトコール顆粒水和剤500倍(45日前/4回以内)を追加散布する。
		黒星病、赤星病、モニリア病、うどんこ病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、すす点病、すす斑病	アスパイア水和剤 500倍 (200g)	30日前	3回以内	500%	果面保護 ハワーケマII または ハイカルティ 1,000倍	
		アブラムシ類、リンゴワタムシ	ウララDF 2,000倍 (50g)	14日前	2回以内			
⑥ /	5月中下旬	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、すす斑病、炭そ病、輪紋病	トレノックスフロアブル 500倍 (200cc)	30日前	5回以内	600%	果面保護 ハワーケマII または ハイカルティ 1,000倍	○キンモンハモグリガにも効果がある。 ○ハマキムシ類、シンクイムシ類対策として、コフューザー-Rを10a当たり100~120本設置する。
		カメムシ類、シンクイムシ類、リンゴワタムシ	バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
⑦ /	6月上旬	黒星病(二次感染)・炭そ病・輪紋病	アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g)	45日前	4回以内	600%	果面保護 ハワーケマII または ハイカルティ 1,000倍	○余分な徒長枝は、防除の妨げになるので整理する。 ○黒星病対策として、発病した葉や果実、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。 【ヒトケトリ防除】 園内をよく観察し、被害の兆候(樹幹からのフラス(虫糞と木屑の混ざったもの)の排出の有無)の早期発見に努め、被害を発見した場合は、フラスを取り除きロシファット(前日/5回以内)のバルを排出孔に差し込み薬液がでるまで噴射する。
		アブラムシ類、カメムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、シンクイムシ類、ナミハダニ、ハマキムシ類、リンゴワタムシ	ロディー水和剤 1,000倍 (100g)	前日	2回以内			
⑧ /	6月中旬	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍 (100cc)	-	-			○腐らん病の発生が見られる園地では、摘果痕からの感染防止のため、トップジンM水和剤 1,500倍(前日/6回以内)を散布する。 ○雨が続く場合でも、散布間隔があかないように晴れ間を狙って防除する。 ○ナマルカイガラムシの発生が多い場合は、本欄の薬剤にコルト顆粒水和剤3,000倍(前日/3回以内)を加用し散布する。
		斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病、すす点病、すす斑病、黒点病、うどんこ病、腐らん病	ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日	3回以内	600%	果面保護 ハワーケマII または ハイカルティ 1,000倍	
		モシクイガ、ナヒシクイ、リンゴワタムシ、クワナカイガラムシ若齢幼虫、ハマキムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ	ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	30日前	4回以内			

令和8年度 JA山形おきたま りんご(ノボルト-体系)病虫害防除基準② りんご振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収 穫 前 使 用 数	総 使 用 回 数	散布量 (10a)	葉面散布 肥料資材	注 意 事 項
⑨ / 6月下旬	黒 星 病 (2 次 感 染)	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍 (100cc)	-	-	600% %	果面保護 ハワーシグマII または ハイカルティ 1,000倍	○オキシラン、オキシサイド、ダイハワー、アリエッティC、フルツガードは同一成分(キヤブシ)を含み、キヤブシを含む農薬の総使用回数は6回以内とする。
		斑点落葉病、輪紋病、黒点病、黒星病	オキシラン水和剤 800倍 (125g)	14日前	4回以内			
		アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
⑩ / 7月上旬	斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病 重 点 防 除	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍 (100cc)	-	-	600% %	果面保護 ハワーシグマII または ハイカルティ 1,000倍	○ナガニの発生が多くなるので、散布むらが出ないように注意(ナガニ防除の効果を高めるため、防除の2~3日前に草刈りを行う)。
		斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病、すす点病、すす斑病、黒点病、うどんこ病、腐らん病	ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
		リンゴハダニ、ナミハダニ、リンゴサビダニ	ダニゲッターフロアブル 2,000倍 (50cc)	前日	1回			
⑪ / 7月中旬	斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病 重 点 防 除	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍 (100cc)	-	-	600% %	果面保護 ハワーシグマII または ハイカルティ 1,000倍	○ナガニの発生が多くなるので、散布むらが出ないように注意(ナガニ防除の効果を高めるため、防除の2~3日前に草刈りを行う)。
		斑点落葉病、輪紋病、黒点病、黒星病	オキシラン水和剤 800倍 (125g)	14日前	4回以内			
		アブラムシ類、キンモンホソガ、カイガラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンハモグリガ	オリオン水和剤40 1,000倍 (100g)	前日	2回以内			
⑫ / 7月下旬	斑 点 落 葉 病 ・ 輪 紋 病 重 点 防 除	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍 (100cc)	-	-	600% %	果面保護 ハワーシグマII または ハイカルティ 1,000倍	○早生種の収穫前日数に注意し散布する。 【褐斑病防除】 褐斑病は気温が20~25℃、多湿多雨条件で発生しやすい。発生が懸念される場合は、本欄の薬剤にハレート1570707L2,000倍(前日/2回以内)を混用して散布する。
		斑点落葉病、輪紋病、黒点病、黒星病	オキシラン水和剤 800倍 (125g)	14日前	4回以内			
		モモシンクイガ、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、ハマキムシ類、アブラムシ類、リンゴハダニ、ナミハダニ	テルスター水和剤 1,000倍 (100g)	前日	1回			
⑬ / 8月中旬	展 着 剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	-	-	600% %		○ダイハワー、ベルクトは同一成分(イシカクジン)を含み、イシカクジンを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。
		斑点落葉病、黒星病、炭そ病、褐斑病、黒点病、輪紋病、すす点病、すす斑病	ダイパワー水和剤 1,000倍 (100g)	前日	3回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、カメムシ類、ケムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
		ハダニ類、リンゴサビダニ、キンモンホソガ	コロマイト乳剤 1,000倍 (100cc)	前日	1回			
⑭ / 8月下旬	展 着 剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	-	-	600% %		○ナミハダニの発生が見られる場合はコテツフロアル2,000倍(前日/2回以内)を加用するか、アガリツチ乳剤2,000倍(前日/-)を単用散布する。また、アガリツチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、 展着剤は使用せず単用散布する。
		斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、黒星病、すす点病・すす斑病	オーソサイド水和剤80 600倍 (166g)	前日	6回以内			
		ハマキムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、シンクイムシ類、ケムシ類、ヨモギエダシヤク、ヒメボクトウ	エクシレルSE 5,000倍 (20cc)	前日	3回以内			
⑮ / 晩生種 9月中旬 早生種 収穫後	展 着 剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	-	-	600% %		○高温が続くと予想される場合は、ストライド顆粒水和剤に代えてアリエッティC水和剤800倍(前日/3回)を散布する。 ○晩生種のみ、9月中旬以降、天候不順が続く場合はストロベードラフロアル3,000倍(前日/3回以内)を散布する。
		斑点落葉病、すす点病、すす斑病、褐斑病、炭そ病、黒星病、黒点病	ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花~ 収穫前日	3回以内			
⑯ / 10/中下旬頃	展 着 剤	ハイテンパワー	10,000倍 (10cc)	-	-	500% %		○今回の防除を実施できなかった場合は、収穫後に実施する。 ○ダイハワー、ベルクトは同一成分(イシカクジン)を含み、イシカクジンを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 ○野鼠対策として根雪前にフジワン粒剤1樹当たり200gを、樹冠下半径50cmの範囲の土壌と均一に混和する。(使用回数2回以内) 【黒星病越冬伝染源対策】被害落葉は翌年の一次伝染源になるため、以下の方法で菌密度低下を図る。 (1)被害落葉を収集し、適切に処分する。(700等を利用すると効率的に収集することができる。) (2)落葉後から展葉期にかけて、園内の土壌表面に堆肥(1~2t/10a)を散布し(堆肥マルチ)、被害落葉を被覆する。
		黒星病	ベルクト水和剤 1,500倍 (66g)	前日	6回以内 (但し、開花期以降散布は3回以内)			

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 J A山形おきたま りんご(ホルド[®]-体系) 病虫害防除基準① りんご振興部会

月日	時期	対象病虫害	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用回数	総使用回数	散布量(10a)	葉面散布肥料資材	注意事項
① /	発芽直前	—	水 (88%)	※水88%にハーベストオイル20+石灰硫黄合剤10gを希釈する。(合計100g)		300%		◆注意◆「オキシドール水和剤SO」「オキシ水和剤」が令和8年(2026)年に登録内容が変更される予定です。防除には変更後の内容を反映し記載しております。ご使用、ご注文の際は十分ご注意ください。 ○薬剤散布前に粗皮削りを行い、枝幹部に十分薬液がかかるよう丁寧に散布する。 ○リンゴハダニおよびナシカイガラムシの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○消費の遅い地帯では、発芽期から展葉期にハーベストオイル200倍(発芽後3週間まで/-)を散布する。なお、腐らん病の発生が懸念される場合は、トップジンM水和剤1,000倍(前日、6回)を加用し散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおしてトップジンM水剤(トップジンM水和剤、トップジンM [®] -ハート)とペンレート剤(ペンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布剤は除く。
		ハダニ類、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍 (2%)	発芽前	—			
	腐らん病必須防除	越冬病虫害、腐らん病、カイガラムシ類、ハダニ類	石灰硫黄合剤 10倍 (10%)	発芽前	—			
② /	展葉初期(4月中旬) 【花そぎ葉が2~3枚展葉した頃】	黒星病	展着剤 斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、炭そ病、輪紋病	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc) トレノックスフロアブル 500倍 (200cc)	— 30日前	— 5回以内	400%	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒星病の発生が多い場合は、トノックスフロアブルに代えてICホルド [®] -412 30倍(-/-)を散布する。ただし、ハーベストオイル等マシン油乳剤の散布後は、2~3日以上経過してからICホルド [®] -412を散布する(マシン油乳剤の効果低下の防止)。
		モスピラン	アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、リンゴワタムシ	モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 (25g)	前日	3回以内		
③ /	展葉10日後	次感染	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	400%	○前年、黒星病の発生が多かった園地では、間隔があかないよう展葉10日後の防除を必ず実施する。 ○黒星病の発生が多い場合は、ストライド顆粒水和剤に代えてICホルド [®] -412 30倍(-/-)を散布する。
		黒星病、モニアア病	ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花前まで	2回以内			
④ /	開花直前(4月下旬)	モニリア	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	400%	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○モニリア病対策として、発病した葉や花、花そぎは摘み取り、適切に処分する。
		黒星病、赤星病、褐斑病、斑点落葉病	カナメフロアブル 4,000倍 (25cc)	前日	3回以内			
⑤ /	落花直後 中心花が7~8割落花(5月上中旬)	ア重	黒星病、赤星病、モニアア病、うどんこ病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、すす点病、すす斑病	ペンコゼブ水和剤 600倍 (166g)	30日前	3回以内	500%	○ウララDFは訪花昆虫に対する影響が少ない。 ○近年、リンゴワタムシの発生が増加傾向なので、散布ムラがないよう、樹幹全体に満遍なく散布する。 ○黒星病が多い園地では、落花10日後にアントラコール顆粒水和剤500倍(45日/4回以内)を追加散布する。
		ア重	アブラムシ類、リンゴワタムシ	ウララDF 2,000倍 (50g)	14日前	2回以内		
⑥ /	5月中下旬	点防除	斑点落葉病、黒星病、黒点病、褐斑病、すす点病、すす斑病、炭そ病、輪紋病	トレノックスフロアブル 500倍 (200cc)	30日前	5回以内	600%	○キンモンハモグリガにも効果がある。 ○ハマキムシ類、シンクイムシ類対策として、コフューザー-Rを10a当たり100~120本設置する。
		カメムシ類、シンクイムシ類、リンゴワタムシ	バリアード顆粒水和剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
⑦ /	6月上旬	黒星病(二次感染)・斑点落葉病	斑点落葉病、黒点病、褐斑病、黒星病、輪紋病、炭そ病、すす点病、すす斑病	アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g)	45日前	4回以内	600%	○余分な徒長枝は、防除の妨げになるので整理する。 ○黒星病対策として、発病した葉や果実は、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。 【ほかの防除】 園内をよく観察し、被害の兆候(樹幹からのフラス(虫糞と木屑の混ざったもの)の排出の有無)の早期発見に努め、被害を発見した場合は、フラスを取り除きロビント [®] (前日/5回以内)のノズルを挿入孔に差し込み薬液がでるまで噴射する。
		アブラムシ類、カメムシ類、キンモンホソガ、キンモンハモグリガ、シンクイムシ類、ナシハダニ、ハマキムシ類、リンゴハダニ	ロディー水和剤 1,000倍 (100g)	前日	2回以内			
⑧ /	6月中旬	腐らん病	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍 (100cc)	—	—	600%	○腐らん病の発生が見られる園では、摘果痕からの感染防止のため、トップジンM水和剤1,500倍(前日/6回以内)を散布する。 ○雨が続く場合でも、防除間隔があかないように晴れ間を狙って防除する。 ○ナシカイガラムシの発生が多い場合は、本欄の薬剤にコロト顆粒水和剤3,000倍(前日/3回)を加用し散布する。
		モスピラン	斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病、黒点病、すす点病、すす斑病、うどんこ病、腐らん病	ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日	3回以内		
		モスピラン	モスピラン、すす斑病、リンゴワタムシ、クワコカイガラムシ若齢幼虫、ハマキムシ類、アブラムシ類、キンモンホソガ	ダイアジノン水和剤34 1,000倍 (100g)	30日前	4回以内		

令和8年度 JA山形おきたま りんご(ホルド[®]-体系) 病虫害防除基準② りんご振興部会

月日	時期	対象病虫害	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用回数	総使用回数	散布量(10a)	葉面散布肥料資材	注意事項
⑨ /	6月下旬	黒星病(2次感染) 斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病	ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	—	600 リットル		○コロマイト乳剤は使用直前に混用する。 ○ナミハダニ防除の効果が高めるため、防除の2~3日前に草刈りを行う。
		アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
		ハダニ類、リンゴサビダニ、キンモンホソガ	コロマイト乳剤 1,000倍 (100cc)	前日	1回			
⑩ /	7月中旬	黒星病(2次感染) 斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病、黒星病	ICボルドー412 30倍 (3.3kg)	—	—	600 リットル		○カメムシ類に対する効果も期待される。
		モモンクイガ、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、ハマキムシ類、アブラムシ類、リンゴハダニ、ナミハダニ	テルスター水和剤 1,000倍 (100g)	前日	1回			
⑪ /	8月上旬 (8月5日頃)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	600 リットル		○早生種の収穫期が近いので、収穫前日数を守る。 ○ハダニ防除を徹底する。
		斑点落葉病、輪紋病、黒点病、黒星病	オキシラン水和剤 800倍 (125g)	14日前	4回以内			
		アブラムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	前日	3回以内			
		ナミハダニ、リンゴハダニ	カネマイトフロアブル 1,000倍 (100cc)	7日前	1回			
⑫ /	8月中下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	600 リットル		○ハダニ類の発生が見られる場合は、ダニゲッターフロアブル2,000倍(前日/1回)を単用散布する。
		斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、黒星病、すす点病・すす斑病	オーソサイド水和剤80 600倍 (166g)	前日	6回以内			
		ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ、シンクイムシ類、ケムシ類、ヨモギエダシヤク、ヒメボクトフ	エクシレルSE 5,000倍 (20cc)	前日	3回以内			
⑬ /	晩生種 9月中旬 早生種収穫後	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	600 リットル		○高温が続くと予想される場合は、ストライド顆粒水和剤に代えてアリエティC水和剤800倍(前日/3回以内)を散布する。 ○晩生種のみ:9月中旬以降、天候不順が続く場合はストロベードライフロアブル3,000倍(前日/3回以内)を散布する。
		斑点落葉病、すす点病、すす斑病、褐斑病、炭そ病、黒星病、黒点病	ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花~ 収穫前日	3回以内			
⑭ /	10/中下旬頃	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍 (10cc)	—	—	500 リットル		○今回の防除を実施できなかった場合は、収穫後に実施する。 ○ ダイバー、ベルコートは同一成分(イミダジン)を含み、イミダジンを含む農薬の総使用回数は3回以内とする。 ○野鼠対策として根雪前にフジワン粒剤1樹当たり200gを、樹冠下半径50cmの範囲の土壌と均一に混和する。(使用回数2回以内) 【黒星病越冬伝染源対策】 被害落葉は翌年の一次伝染源になるため、以下の方法で菌密度低下を図る。 (1)被害落葉を収集し、適切に処分する。(7アア等を利用すると効率的に収集することができる。) (2)落葉後から展葉期にかけて、園内の土壌表面に堆肥(1~2t/10a)を散布し(堆肥マルチ)、被害落葉を被覆する。
		黒星病	ベルコート水和剤 1,500倍 (66g)	前日	6回以内 (但し、開花期以降散布は3回以内)			

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 JA山形おきたま 西洋梨 (ホルド[®]-体系) 病害虫防除基準①

西洋なし振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100ℓ当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材	注意事項
① /	発芽直前	—	水 (88ℓ)	※水88ℓにハーベストオイル2ℓ+石灰硫黄合剤10ℓを希釈する。(合計100ℓ)		300ℓ	—	◆注意◆「オキシドール水和剤80」「オキシラン水和剤」が令和8年(2026)春に登録内容が変更される予定です。防除際には変更後の内容を反映し記載しております。ご使用、ご注文の際は十分ご注意ください。 ○粗皮削りをしっかり行い、休眠期防除を実施する。 ○リンゴハダニの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○ハーベストオイルの希釈液に石灰硫黄合剤を10倍になるよう混用する。
		ハダニ類、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍(2ℓ)	発芽前	—			
		越冬病害虫、ハダニ類	●石灰硫黄合剤 10倍(10ℓ)	発芽前	—			
② /	開花前	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	300ℓ	—	○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒斑細菌病がみられる場合には、本欄の薬剤に加えてICホルド [®] -412 30倍(-/-)を混用散布する。(その場合展着剤は不要)また、開花してからICホルド [®] -412がかかるとサビ果の発生の原因となるため、必ず開花前に散布する。 ○アブラムシ類の発生が早い園地では、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○例年ナシメジクイの被害が多い園地では、対策として4月20日までにナシメジクイ100本/10aを設置する。モモシクイガやハマキムシ類の被害も多い場合は、5月下旬にコンフューサーN200本/10aを設置する。(直射日光が当たる場所や、高温になりやすい金属支柱等への設置は避ける。)
		ハマキムシ類	フェニックスフロアブル 5,000倍(20cc)	前日	2回以内			
③ /	満開 10日後	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	450ℓ	果面保護 パワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。 ○胴枯病の時期別の防除対策は8月上中旬備考欄を参考にする。
		赤星病、黒星病	オンリーワンフロアブル 4,000倍(25cc)	前日	3回以内			
		輪紋病、黒星病、炭疽病、褐色斑点病、黒斑細菌病	●オキシラン水和剤 500倍(200g)	21日前	9回以内			
④ /	5月 下旬	胴枯病、輪紋病、黒星病	★ベンレート水和剤 2,000倍(50g)	前日	4回以内	450ℓ	果面保護 パワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおして、トップジンM剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(キャブレート水和剤、ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。 ○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(21日前/9回以内)を散布する。 ○この回及び次回防除には、サビ軽減のため展着剤を使用しない。 ○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。 ○ナシメジクイ対策として、5月下旬以降、園地の草刈りを徹底する。
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、クワコナカイガラムシ、ハマキムシ類	スミチオン水和剤40 800倍(125g)	21日前(無袋)	6回以内			
【 6 月 上 旬 ~ 8 月 上 旬 】 は 輪 紋 病 重 点 防 除 期 間 降 雨 が 続 く 場 合 は 追 加 散 布 実 施								
⑤ /	6月 月上旬	輪紋病、黒斑病、黒星病	●オキシドール水和剤80 1,500倍(66g)	21日前	9回以内	600ℓ	果面保護 パワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○殺菌剤は、確実に散布する。 ○ナシメジクイの被害枝(芯折れ)は、見つけしだいせん除し、適切に処分する。
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
		ハダニ類	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回			
⑥ /	6月 中旬	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600ℓ	果面保護 パワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○ナシメジクイの発生が多い場合は、本欄の薬剤にコルト顆粒水和剤3,000倍(前日/3回以内)を加用し散布する。なお、ルレクフェには薬害を生じる恐れがあるため注意する。
		輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
		コナカイガラムシ類若齢幼虫、ハマキムシ類、アブラムシ類、ナシゲンバイ、シンクイムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	6回以内			
⑦ /	6月 下旬	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600ℓ	果面保護 パワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○カメムシ注意
		黒星病、輪紋病	●キャブレート水和剤 600倍(166g)	7日前	4回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、ハダニ類	テルスター水和剤 1,000倍(100g)	前日	2回以内			
⑧ /	7月 月上旬	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600ℓ	果面保護 パワーシグマII または バイカルティ 1,000倍	○今後ハダニの発生が多くなるので、時期が遅れないよう散布する。(防除2~3日前に必ず草刈りを行なう)
		黒星病、輪紋病、うどんこ病、心腐れ症(胴枯病菌)	●スクレアフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	3回以内			
		ハダニ類、ニセナシサビダニ	ダニゲッターフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回			

令和8年度 JA山形おきたま 西洋梨 (ホルド-体系) 病害虫防除基準②

西洋なし振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材	注意事項
⑨ /	7月中旬	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	-	-	600%	果面保護 パワーシールドII または バイカルティ 1,000倍	○オキシンドー水和剤80の収穫前使用日数が21日前のため、極早生品種がある園地では散布時期に注意する。 【梅雨期の防除対策】 ・降雨が続く場合は、晴れ間を逃さず防除を実施する。 ・有機銅水和剤は散布後の積算降水量が100mmを越えると効果がなくなるため、次回の防除を前倒しで実施し、必要な場合はICボルドー412 30倍(-/-)等の殺菌剤を追加散布をする。 ・固着性展着剤アビオン-E1,000倍を必ず加用する。
		輪紋病、黒斑病、黒星病	●オキシンドー水和剤80 1,500倍(66g)	21日前	9回以内			
		ハマキムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、コナカイガラムシ類若齢幼虫、ナシゲンバイ	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	6回以内			
⑩ /	7月下旬	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	-	-	600%	果面保護 パワーシールドII または バイカルティ 1,000倍	カメムシ類対策 ○7月以降はカメムシの発生が多くなるので、定期的に被害の出やすい園地の周辺部や樹上をよく観察する。 ○ロディー水和剤1,000倍(前日/2回以内)を散布する。 ○シンクイムシの発生が多い園地ではナシハコ50~100本/10aを追加設置する。
		輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシギジラミ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑪ /	8月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○ベルコート水和剤の収穫前使用日数が14日前のため、早生品種がある園地では散布時期に注意する。 【胴枯病の時期別の防除対策】 《1~4月》剪定時の発病枝のせん除 ①3~5年枝の病斑は、削り取って★トップジンMペースト(3回以内)か●バッチレート(3回以内)を塗布する。病斑が大きく、治療困難な発病枝はせん除する。 ②剪定後の切り口には必ず★トップジンMペースト(3回以内)か●バッチレート(3回以内)を塗布する。 ③休眠期防除(石灰硫黄合剤)の実施 《5~7月 最重要》 ①枯死した枝や果(花)叢のせん除や、病斑の削り取りを実施し、塗布剤を処理する。病斑やせん除した枝等は適切に処分する。 ②有機銅剤などを間隔をあげずに定期的に散布する。 《8月~秋冬期》 ①発病程度の高い枝をせん除し、必ず塗布剤を処理する。 ②新梢上の小黒点病斑を確認し、苗木や幼木であれば病斑を削り取り塗布剤を処理する。
		黒斑病、黒星病、輪紋病、うどんこ病	ベルコート水和剤 1,000倍(100g)	14日前	5回以内			
		シンクイムシ類、カメムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ類、アブラゼミ	アグロスリン水和剤 1,000倍(100g)	前日	3回以内			
		ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	前日	1回			
⑫ /	8月中旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日/-)を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。
		輪紋病、黒星病	オーソサイド水和剤80 600倍(166g)	3日前	9回以内			
		カイガラムシ類、アブラムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類	オリオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前	2回以内			
⑬ /	8月下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○オーソサイド水和剤80は収穫前使用日数が3日前のため散布時期に注意する。
		輪紋病、うどんこ病、黒斑病、褐色斑点病、黒星病	パレード15フロアブル 2,000倍(50cc)	前日	2回以内			
		シンクイムシ類、ハマキムシ類、アザミウマ類	ディアナWDG 5,000倍(20g)	前日	2回以内			
⑭ /	晩生種 9月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○胴枯病の枯死枝等は、徹底して取り除き適正に処分する。 ○例年、ナシハコイの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナシハコイの活動時間帯(18~22時頃)の気温が15℃以上の日が続く場合は、9月下旬にスカウトフロアブル2,000倍(前日/5回以内)を追加散布する。 【収穫後の黒斑細菌病対策】 ○黒斑細菌病がみられる園地では、収穫後に菌密度の低下を狙いICボルドー412 30倍(-/-)を散布する。
		輪紋病、黒星病	オーソサイド水和剤80 600倍(166g)	3日前	9回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類	バリアード顆粒水和剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑮ /	9月中旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○胴枯病、腐らん病に対する効果も期待される。
		輪紋病	ストライド顆粒水和剤 1,500倍(66g)	前日	3回以内			
		ハマキムシ類、シンクイムシ類	エクシレルSE 2,500倍(40cc)	前日	3回以内			
⑯ /	落葉後	固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	-	-	300%		
		越冬病害虫	●石灰硫黄合剤 10倍(10%)	発芽前	-			

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 JA山形おきたま 西洋梨（有袋ホルト[®]-体系）病虫害防除基準①

西洋なし振興部会

月日	時期	対象病虫害	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材	注意事項
① /	発芽直前	—	水 (88%)	※水88%にハーベストオイル2%+石灰硫黄合剤1%を希釈する。(合計100%)		300%		◆注意◆「オキシラン水和剤80」「オキシラン水和剤」が令和8年(2026)春に登録内容が変更される予定です。防除層には変更後の内容を反映し記載しております。ご使用、ご注文の際は十分ご注意ください。 ○粗皮削りをしっかり行い、休眠期防除を実施する。 ○リンゴハダニの越冬密度が高い園地では、マシン油乳剤を必ず散布する。 ○ハーベストオイルの希釈液に石灰硫黄合剤を10倍になるよう混用する。
		ハダニ類、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍(2%)	発芽前	—			
		越冬病虫害、ハダニ類	●石灰硫黄合剤 10倍(10%)	発芽前	—			
② /	開花前	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	300%		○訪花昆虫を保護するため、活動時間前(早朝)に散布を行う。 ○黒斑細菌病がみられる場合には、本欄の薬剤に加えてICホルト [®] -412 30倍(—/—)を混用し散布する。(その場合展着剤は不要)また、開花してからICホルト [®] -412がかかるとサビ果の発生の原因となるため、必ず開花前に散布する。 ○アブラムシ類の発生が早い園地では、モスピラン顆粒水溶性2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○例年ナンシメンクイの被害が多い園地では、対策として4月20日までにナンシメンクイ100本/10aを設置する。モシクイやハマキムシ類の被害も多い場合は、5月下旬にコンフューサーN200本/10aを設置する。(直射日光が当たる場所や、高温になりやすい金属支柱等への設置は避ける。)
		ハマキムシ類	フェニックスフロアブル 5,000倍(20cc)	前日	2回以内			
③ /	満開10日後	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	450%	果面保護 ハワースグマII または バイカルティ 1,000倍	○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。 ○胴枯病の時期別の防除対策は7月中旬備考欄を参考にする。
		赤星病、黒星病	オンリーワンフロアブル 4,000倍(25cc)	前日	3回以内			
		輪紋病、黒星病、炭疽病、褐色斑点病、黒斑細菌病	●オキシラン水和剤 500倍(200g)	21日前	9回以内			
④ /	5月下旬	胴枯病、輪紋病、黒星病	★ベンレート水和剤 2,000倍(50g)	前日	4回以内	450%	果面保護 ハワースグマII または バイカルティ 1,000倍	【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をととして、トップジンM剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(キャブレート水和剤、ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。 ○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(21日前/9回以内)を散布する。 ○この回及び次回防除には、サビ軽減のため展着剤を使用しない。 ○ナンシメンクイ対策として、5月下旬以降、園地の草刈を徹底する。 ○胴枯病による枯死花そう、枯死枝は徹底して取り除き適切に処分する。
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、クワコナカイガラムシ、ハマキムシ類	スミチオン水和剤40 800倍(125g)	14日前(有袋)	6回以内			
【 6 月 上 旬 ~ 8 月 上 旬 】 は 輪 紋 病 重 点 防 除 期 間 降 雨 が 続 く 場 合 は 追 加 散 布 実 施								
⑤ /	6月上旬	輪紋病、黒斑病、黒星病	●オキシラン水和剤80 1,500倍(66g)	21日前	9回以内	600%	果面保護 ハワースグマII または バイカルティ 1,000倍	○殺菌剤は、確実に散布する。 ○ナンシメンクイの被害枝(芯折れ)は、見つけしだいせん除し、適切に処分する。
		アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ	スタークル顆粒水溶性 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
		ハダニ類	ダニコングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回			
⑥ /	6月中旬	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600%	果面保護 ハワースグマII または バイカルティ 1,000倍	○ナシマルカイガラムシの発生が多い場合は、本欄の薬剤にコロ顆粒水和剤3,000倍(前日/3回以内)を加用し散布する。なお、ル・ルクエには薬害を生じる恐れがあるため注意する。
		輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
		コナカイガラムシ類若齢幼虫、ハマキムシ類、アブラムシ類、ナンシメンクイ、シンクイムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	6回以内			
⑦ /	6月下旬袋かけ終了	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	—	—	600%	果面保護 ハワースグマII または バイカルティ 1,000倍	○カラムシ注意 ○輪紋病・胴枯病の果実への感染を防ぐため、6月下旬までに袋かけを行う。
		黒星病、輪紋病	●キャブレート水和剤 600倍(166g)	7日前	4回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、ハダニ類	テルスター水和剤 1,000倍(100g)	前日	2回以内			

令和8年度 JA山形おきたま 西洋梨（有袋ホルト-体系）病害虫防除基準②

西洋なし振興部会

月日	時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材	注意事項	
⑧ /	7月上旬	【 胴枯病重点防除時期 】	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	-	-	600%	果面保護 ハワーグマII または バイカルティ 1,000倍 ※袋かけを終了 した場合は使用 しなくてもよい。	○降雨が多い場合は、オキシラン水和剤に代えてスレアフロアブル2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○今後ハダニの発生が多くなるので、時期が遅れないよう散布する。(防除2~3日前に必ず草刈りを行う)
			黒星病、黒斑細菌病、輪紋病、炭そ病、黒斑病	●オキシラン水和剤 500倍(200g)	21日前	9回以内			
			アブラムシ類、シンクイムシ類、カメムシ類、ケムシ類、コナカイガラムシ類、チュウゴクナシキジラミ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
		ハダニ類、ニセナシサビダニ	ダニゲッターフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回				
⑨ /	7月中旬	【 胴枯病重点防除時期 】	輪紋病	●ICボルドー412 30倍(3.3kg)	-	-	600%		○早生品種がある場合は、収穫前日数に注意して散布する。
			ハマキムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、コナカイガラムシ類若齢幼虫	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	6回以内			
⑩ /	7月下旬	【 胴枯病重点防除時期 】	輪紋病	●ICボルドー412 30倍(3.3kg)	-	-	600%		○早生品種がある場合は、収穫前日数に注意して散布する。
			ハマキムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、コナカイガラムシ類若齢幼虫	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	14日前	6回以内			
⑪ /	8月上旬	【 胴枯病重点防除時期 】	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○早生品種については、収穫前日数を厳守し散布する。 ○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日/-)を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。
			黒斑病、黒星病、輪紋病、うどんこ病	ベルコート水和剤 1,000倍(100g)	14日前	5回以内			
			シンクイムシ類、カメムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ類、アブラゼミ	アグロスリン水和剤 1,000倍(100g)	前日	3回以内			
			ハダニ類	コロマイト水和剤 2,000倍(50g)	前日	1回			
⑫ /	8月中下旬	【 胴枯病重点防除時期 】	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	-	-	600%		○早生種については、収穫前日数を厳守し散布する。 ○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日/-)を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。
			輪紋病、うどんこ病、黒斑病、褐色斑点病、黒星病	パレード15フロアブル 2,000倍(50cc)	前日	2回以内			
			カメムシ類、アブラムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑬ /	9月上旬	【 胴枯病重点防除時期 】	輪紋病	●ICボルドー412 30倍(3.3kg)	-	-	600%		○マルゲリット・マリラ、オーロ等の早生種の収穫が終了しない場合は、飛散しないように注意する。 ○胴枯病の枯死枝等は、徹底して取り除き適正に処分する。 ○例年、ナジメシクイの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナジメシクイの活動時間帯(18~22時頃)の気温が15℃以上の日が続く場合は、9月下旬にスカウトフロアブル2,000倍(前日/5回以内)を追加散布する。
			ハマキムシ類、シンクイムシ類、ケムシ類	サムコルフロアブル10 5,000倍(20cc)	前日	3回以内			
⑭ /	落葉後	【 胴枯病重点防除時期 】	固着性展着剤	アピオン-E 1,000倍(100cc)	-	-	300%		○胴枯病、腐らん病に対する効果も期待される。
			越冬病害虫	●石灰硫黄合剤 10倍(10%)	発芽前	-			

【胴枯病の時期別の防除対策】

《1~4月》剪定時の発病枝のせん除
 ①3~5年枝の病斑は、削り取って★トップジンMペースト(3回以内)か●パッチレート(3回以内)を塗布する。病斑が大きく、治療困難な発病枝はせん除する。
 ②剪定後の切り口には必ず★トップジンMペースト(3回以内)か●パッチレート(3回以内)を塗布する。
 ③休眠期防除(石灰硫黄合剤)の実施

《5~7月 最重要》
 ①枯死した枝や果(花)叢のせん除や、病斑の削り取りを実施し、塗布剤を処理する。病斑やせん除した枝等は適切に処分する。
 ②有機銅剤などを間隔をあけずに定期的に散布する。

《8月~秋冬期》
 ①発病程度の高い枝をせん除し、必ず塗布剤を処理する。
 ②新梢上の小黒点病斑を確認し、苗木や幼木であれば病斑を削り取り塗布剤を処理する。

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

令和8年度 JA山形おきたま西洋梨(コンフューザー体系)病害虫防除基準 ① 西洋なし振興部会

回数	時期	対象病害虫	成分回数	薬剤名及び濃度(水100ℓ当り薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	散布量10a	一般資材	注意事項		
1	発芽直前	-	-	水	-	-	(88ℓ)	※水88ℓにハーベストオイル2ℓ+石灰硫黄合剤10ℓを希釈する(合計100ℓ)	◆注意◆「オキシドール水和剤80」「オキシラン水和剤」が令和8年(2026)春に登録内容が変更される予定です。防除暦には変更後の内容を反映し記載しております。ご使用、ご注文の際は十分ご注意ください。 ○胴枯病が多いので、十分量を散布する。 ○剪定切り口及び傷口の癒合促進に塗布剤を用いる。 ○散布が遅れたり、重複散布すると薬害の原因になるので、必ず発芽前に散布する。 ○粗皮下等での越冬ダニの密度が非常に高いので、粗皮削りを徹底し、薬液をタップリかける。 ○カイガラムシ類の発生が多く見られる園地では発芽10日後にアブロードフロアブル1,000倍(30日前/2回以内)を追加散布する。		
		越冬病害虫・ハダニ類	-	石灰硫黄合剤	10倍	-	(10ℓ)	発芽前		-	300ℓ
		ハダニ類・カイガラムシ類	1	ハーベストオイル	50倍	-	(2ℓ)	発芽前	-		
2	開花前	黒斑細菌病	-	ICボルドー412	30倍	-	(3.3kg)	-	-	350ℓ	○開花してからICボルドー412がかかるとサビ果の発生の原因となるため、必ず開花前に散布する。 ○春肥料(必要に応じ) ○芽かきの時期にアブラムシの発生が懸念される場合はモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○胴枯病発病枝等は、徹底し取り除き焼却する。 ○黒斑細菌病の発生が見られない場合は、ICボルドー412 30倍(-/-)に代えてトリフミン水和剤2,000倍(前日/3回)を混用散布する。(その場合は展着剤はマイリノー加用)
		ハマキムシ類	2	フェニックスフロアブル	4,000倍	前日	(25cc)	2回以内			
	~4/20まで	【交信かく乱剤】 (性フェロモン剤) ナシヒメシンクイ	-	ナシヒメコン	使用時期→成虫発生初期から終期 使用方法→ディスペンサーを対象作物の枝に巻きつけ設置する。			100本		●フェロモン剤については、ナシヒメコン、コンフューザーN及びRのいずれかを使用する。ナシヒメコンを使用する場合はコンフューザーより残効が期待されるため、越冬成虫等の対策として開花前の4月20日までに設置する。コンフューザーは残効が劣るので6月上旬頃に設置する。	
3	満開10日後	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	-	(10cc)	-	-	350ℓ	○訪花昆虫には十分注意する。 ○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(21日前/9回以内)を散布する。 ○アブラムシ類の発生が早い園地は、ウララDF2,000倍(14日前/2回以内)またはモスピラン顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を加用散布する。 【注意】 栽培期間(収穫後から次の収穫まで)をとおして、トップジンM剤(トップジンM水和剤、トップジンMペースト)とベンレート剤(キャブレート水和剤、ベンレート水和剤)はいずれか一方のみの使用とする。但し、塗布処理は除く。
		輪紋病・うどんこ病・胴枯病・黒星病	3	ベンレート水和剤	2,000倍	前日	(50g)	4回以内			
		ハダニ類	4	バロックフロアブル	2,000倍	14日前	(50cc)	2回以内			
4	5月下旬 (5/25頃)	輪紋病・うどんこ病・胴枯病	5	ベンレート水和剤	2,000倍	前日	(50g)	4回以内	450ℓ	○黒斑細菌病の発生がみられる園地では、ベンレート水和剤に代えてオキシラン水和剤500倍(21日前/9回以内)を散布する。 ○山手などカメムシ類の被害が見られる園地では、ダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回以内)またはスタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。 ○スカウトフロアブルはハマキムシ類に対する効果が期待される。	
		シンクイムシ類・アブラムシ類	6	スカウトフロアブル	2,000倍	前日	(50cc)	5回以内			
	6月上旬	【交信かく乱剤】 (性フェロモン剤)	-	コンフューザーN	【対象害虫】モモシンクイガ・ナシヒメシンクイ・チャハマキ・チャノコカクモンハマキ・リンゴコカクモンハマキ・リンゴモンハマキ			200本		使用時期→成虫発生初期から終期 使用方法→ディスペンサーを対象作物の枝に巻きつけ設置する。 ○防風ネットを設置し、園地の中心部より外側を多めに設置する。 ○傾斜地では、下方より上方部に多めに設置する。	
			-	コンフューザーR	【対象害虫】モモシンクイガ・ナシヒメシンクイ・リンゴコカクモンハマキ・ミダレカクモンハマキ・リンゴモンハマキ			100本			
5	6月上旬	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	-	(10cc)	-	-	500ℓ	○これ以降、新梢伸長期となり枝葉が茂ってくるので、薬液量を厳守する。 ○カイガラムシ類の発生が多く見られる園地では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日/3回以内)を混用し散布する。
		輪紋病・黒斑病・心腐れ症(胴枯病菌)・黒斑細菌病	7	デランフロアブル	1,000倍	60日前	(100cc)	4回以内			
6	6月中旬	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000倍	-	(100cc)	-	-	500ℓ	固着性展着剤は確実に加用する。 ○梅雨期間の防除は、降雨の影響を受け不定期となりやすいので、十分な薬量と丁寧な散布に心がける。 【梅雨期のポイント】 ・晴れ間を逃さず、雨前散布を徹底する。 ・固着性展着剤を加用する。 ・降雨が多い場合は殺菌剤を追加散布する。(有機銅の場合は100mmの降雨で残効がなくなる。) ・薬液量をしっかりとかける。
		輪紋病・炭そ病・黒斑病・うどんこ病	8	アミスター10フロアブル	1,000倍	前日	(100cc)	5回以内			
		シンクイムシ類・カメムシ類・コナカイガラムシ類・アブラムシ類・ケムシ類・チュウゴクナシキジラミ	9	ダントツ水溶剤	2,000倍	前日	(50g)	3回以内			
		ハダニ類	10	ダニコングフロアブル	2,000倍	前日	(50cc)	1回			
7	6月下旬	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000倍	-	(100cc)	-	-	500ℓ	○キャブレート水和剤に含まれるキャプタンの総使用回数は9回以内、ペノミルの総使用回数は6回以内(但し、塗布は2回以内、散布は4回以内)
		輪紋病	11.12	キャブレート水和剤	600倍	7日前	(166g)	4回以内			

令和8年度 JA山形おきたま 西洋梨(コンフェーザー体系)病虫害防除基準 ② 西洋なし振興部会

回数	時期	対象病虫害	成分回数	薬剤名及び濃度(水100ℓ当り薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	散布量 10a	一般資材	注意事項	
8	7月初旬 (7/5頃)	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000倍	(100cc)	-	-	○7~8月は、カメムシ対策を徹底(飛来を確認したら防除) ○輪紋病防除のポイント時期(散布間隔を空けないこと)	
		輪紋病、黒斑病、黒星病	13	オキシドール水和剤80	1,500倍	(66g)	21日前	9回以内		500ℓ
		コナカイガラムシ類若齢幼虫・ハマキムシ類・アブラムシ類・ナングンバイ・シンクイムシ類	14	ダイアジノン水和剤34	1,000倍	(100g)	14日前	6回以内		
9	7月中旬 (7/15頃)	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000倍	(100cc)	-	-	○オキシラン水和剤は収穫前使用日数が21日前となっているので、早生種の収穫を考慮して、遅れずに散布する。	
		輪紋病・黒星病・黒斑病	15.16	オキシラン水和剤	600倍	(166g)	21日前	9回以内		500ℓ
		ハダニ類・ニセナシサビダニ	17	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	(50cc)	前日	1回		
10	7月下旬 (7/25頃)	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000倍	(100cc)	-	-	○オキシラン水和剤は収穫前使用日数が21日前となっているので、早生種の収穫を考慮して、遅れずに散布する。	
		輪紋病・黒星病・黒斑病	18.19	オキシラン水和剤	600倍	(166g)	21日前	9回以内		600ℓ
		シンクイムシ類・アブラムシ類・カメムシ類・ハマキムシ類・ハダニ類	20	テルスター水和剤	1,000倍	(100g)	前日	2回以内		
11	8月上旬	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	(10cc)	-	-	○早生種は収穫前使用日数を厳守 ○ベルコート水和剤の収穫前使用日数が14日前のため、早生品種がある園地では散布時期に注意する。 ○ダイアジノン水和剤34の収穫前使用日数が14日前のため、早生品種がある園地では散布時期に注意する。	
		黒斑病、黒星病、輪紋病、うどんこ病	21	ベルコート水和剤	1,000倍	(100g)	14日前	5回以内		600ℓ
		コナカイガラムシ類若齢幼虫・ハマキムシ類・アブラムシ類・ナングンバイ・シンクイムシ類	22	ダイアジノン水和剤34	1,000倍	(100g)	14日前	6回以内		
12	8月中旬	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	(10cc)	-	-	○ハダニの発生が遅くまで見られる園地では、8月中旬のコロマイト水和剤を8月下旬に使用する。(注意:使用回数1回) ○ナリアWDGはルレクチェ、ピオーネの葉・果実および藤稔、サニールージュ、シャルドネの葉への薬害に注意する。	
		輪紋病、炭そ病、うどんこ病、黒斑病	23.24	ナリアWDG	2,000倍	(50g)	前日	3回以内		600ℓ
		シンクイムシ類・カメムシ類・コナカイガラムシ類・アブラムシ類・ケムシ類・チュウゴクナシキジラミ	25	ダントツ水溶剤	2,000倍	(50g)	前日	3回以内		
		ハダニ類	-	コロマイト水和剤	2,000倍	(50g)	前日	1回		
13	8月下旬	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	(10cc)	-	-	○オーソサイド水和剤80は収穫前使用日数が3日前のため散布時期に注意する。	
		輪紋病	26	オーソサイド水和剤80	600倍	(166g)	3日前	9回以内		600ℓ
		ハマキムシ類、シンクイムシ類、ケムシ類	27	フェニックスフロアブル	4,000倍	(25cc)	前日	2回以内		
14	9月上旬 (晩生種対応)	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	(10cc)	-	-	○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日/ー)を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。 ○近年、ナシヒメシンクイの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナシヒメシンクイの活動時間帯(18~22時頃)の気温が15℃以上の日が続く場合は活動に注意する。 ○黒斑細菌病がみられる園地では、収穫後に菌密度の低下を狙いICホルド-412 30倍(-/-)を散布する。	
		輪紋病・うどんこ病・黒斑病・褐色斑点病	28	パレード15フロアブル	2,000倍	(50cc)	前日	2回以内		600ℓ
		シンクイムシ類・アブラムシ類	29	スカウトフロアブル	2,000倍	(50cc)	前日	5回以内		
15	9月中旬 (晩生種対応)	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	(10cc)	-	-	○ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(前日/ー)を単用散布する。また、アカリタッチ乳剤は殺卵効果がないため、1週間間隔で2~3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布し、展着剤は使用せず単用散布する。 ○近年、ナシヒメシンクイの発生が多くなっている。9月中旬の防除以降、ナシヒメシンクイの活動時間帯(18~22時頃)の気温が15℃以上の日が続く場合は活動に注意する。 ○黒斑細菌病がみられる園地では、収穫後に菌密度の低下を狙いICホルド-412 30倍(-/-)を散布する。	
		輪紋病	30	ストライド顆粒水和剤	1,500倍	(66g)	前日	3回以内		600ℓ
		ハマキムシ類・シンクイムシ類	31	エクシレルSE	2,500倍	(40cc)	前日	3回以内		
16	9月下旬 (晩生種対応)	展着剤	-	マイリノー	10,000倍	(10cc)	-	-	ラ・フランス専用肥料 有機100%の施用 収穫直後 7~8袋/10a 雪解け直後 2~3袋/10a	
		アブラムシ類・シンクイムシ類・カメムシ類	32	バリアード顆粒水和剤	2,000倍	(50g)	前日	3回以内		
17	落葉後	固着性展着剤	-	アビオン-E	1,000倍	(100cc)	-	-	ラ・フランス専用肥料 有機100%の施用 収穫直後 7~8袋/10a 雪解け直後 2~3袋/10a	
		越冬病虫害	-	石灰硫黄合剤	10倍	(10ℓ)	発芽前	500ℓ		

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

【輪紋病対策】

梅雨期の降雨が多い場合や降雨が続く、散布が前倒しとなった場合は殺菌剤を追加散布する。ただし、“なし”での有効成分の総使用回数を遵守する。

令和8年度 J A山形おきたま もも 病害虫防除基準 ① もも振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材・備考	注意事項
① /	発芽前	モモアカアブラムシ、カイガラムシ類	ハーベストオイル 50倍(2%)	発芽前	—	350%		<ul style="list-style-type: none"> ○出来るだけ暖かく風のない日を選んで、枝先から樹元まで丁寧に散布する。 ○剪定の切り口には、トップジンMペースト(3回以内)またはバツレート(3回以内)を原液で塗布する。 ○せん孔細菌病の発生が多かった圃地は、ICボルドー散布前にカシボルドー500倍(開花前まで3回以内)を散布する。 ○カカシカ対策として、周辺も含めた圃地の清掃・除草を行いきれいにしておく。(特に幹周辺はきれいにしておく) ○カイラムシ類の発生が多い樹では、休眠期に高圧水による洗い流しや、ワイヤーブラシがけを行う。 ○前年落葉期にトサイトA乳剤を行わなかった場合は、コスカシハ対策として、カッサイトS 1.5倍液(30日前/1回)を樹幹部および主枝に塗布する。(総使用回数のカカシは収穫後からとなり、トサイトA乳剤とカッサイトSは同一成分を含むため、落葉期のトサイトA乳剤とカッサイトSの併用は不可)
	縮葉病必須防除	黒星病、灰星病、せん孔細菌病、縮葉病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	7日前	5回以内			
	発芽するまでに必ず散布	カイガラムシ対策強化	カイガラムシ類幼虫	アブロードフロアブル 1,000倍(100cc)	14日前			
② /	開花直前 (花弁の見え始めまで)	せん孔細菌病	ICボルドー412 30倍(3.3kg)	—	—	350%		<ul style="list-style-type: none"> ○せん孔細菌病の感染が始まる時期なので、前年発生の多かった圃地は必ず散布する。 ○モモハモグリガやシンクイムシ類等の対策として、4月下旬にコンフューザーMM100~120本/10aを設置する。
③ /	落花直後 (5月上旬)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	350%		<ul style="list-style-type: none"> せん孔細菌病 生育適温は、25℃前後で葉や果実の気孔や傷口から侵入する。風当たりの強い圃や湿度の高い圃では発生が多い。 対策と耕種的防除 ①防風網を設置する。 ②伝染源となる春型病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、圃地を見回り早期発見に努める。 ③収穫後のボルドー液散布。(間隔を空けずに散布する)
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病	オーシャインフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	3回以内			
		せん孔細菌病	ストマイ液剤20 1,000倍(100cc)	60日前	2回以内			
		ハマキムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ、コスカシハ	フェニックスフロアブル 4,000倍(25cc)	前日	2回以内			
④ /	5月中旬 (幼果期)	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、せん孔細菌病	デランフロアブル 600倍(166cc)	7日前	4回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類、カメムシ類、アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑤ /	5月下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		<ul style="list-style-type: none"> ○カイガラムシ類の発生が見られる場合は、モントフロアブル2,000倍(7日前/3回以内)を単用散布する。
		灰星病、ホモブシス腐敗病、うどんこ病、すすかび病、果実赤点病	ベルコート水和剤 1,500倍(66g)	前日	3回以内			
		せん孔細菌病	マイコシールド 1,500倍(66cc)	21日前	5回以内			
		アブラムシ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類、カイガラムシ類	ダイアジノン水和剤34 1,000倍(100g)	前日	4回以内			
⑥ /	6月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		<ul style="list-style-type: none"> ○カメムシ類の発生には常に注意する。 ○ナシマルカイガラムシの発生が多い場合は、6月中旬にダイアジノン水和剤34 1,000倍(前日/4回以内)を単用散布する。
		黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病、せん孔細菌病	デランフロアブル 600倍(166cc)	7日前	4回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	5回以内			
		ハダニ類	ダニユングフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回			
⑦ /	6月中下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		<ul style="list-style-type: none"> ○シンクイムシ類やハマキムシ類の発生が多くなるので注意する。 ○せん孔細菌病の多発生が懸念される場合は、マイコシールド1,500倍(21日前/5回以内)を散布する。早生品種がある場合は収穫前日数に注意する。
		黒星病、灰星病、せん孔細菌病	トレノックスフロアブル 500倍(200cc)	7日前	5回以内			
		ハマキムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	エクシレルSE 5,000倍(20cc)	前日	3回以内			

【せん孔細菌病対策】圃地を見回り、春型病斑を発見次第切り取り、適切に処分する。

令和8年度 JA山形おきたま もも 病害虫防除基準 ② もも振興部会

月日	散布時期	対象病害虫	薬剤名及び濃度(水100%当り薬量)	収穫前使用日	総使用回数	散布量(10a)	一般資材・備考	注意事項
⑧ /	7月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		
		灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、うどんこ病、炭そ病、果実赤点病、すすかび病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	2回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前	6回以内			
⑨ /	7月中旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		カメムシの発生が多い園地では、バリアード顆粒水和剤に代えてスタール顆粒水溶剤2,000倍(前日/3回以内)を散布する。
		灰星病、うどんこ病、ホモプシス腐敗病、すすかび病、果実赤点病	ベルコート水和剤 1,500倍(66g)	前日	3回以内			
		アブラムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	バリアード顆粒水和剤 4,000倍(25g)	前日	3回以内			
		ハダニ類、モモサビダニ	ダニゲッターフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	1回			
⑩ /	7月下旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%	カルシウム肥料 バイカルティ 1,000倍	○灰星病の被害果は見つけ次第取り除き適切に処分する。
		灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、炭そ病、うどんこ病	オンリーワンフロアブル2,000倍(50cc)	前日	3回以内			
		モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類	スカウトフロアブル 2,000倍(50cc)	前日	5回以内			
⑪ /	8月上旬 ～ 8月中旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%	カルシウム肥料 バイカルティ 1,000倍	○この回の散布から収穫期まで、防除間隔が空いたり不順天候が続く場合、または、シンクイムシ類の発生が懸念される場合は、次の薬剤を繰上げて散布する。
		灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、うどんこ病、炭そ病、果実赤点病、すすかび病	ナリアWDG 2,000倍(50g)	前日	2回以内			
		カイガラムシ類、モモハモグリガ、シンクイムシ類、アブラムシ類、カメムシ類、アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日	3回以内			
⑫ /	晩生種 8月下旬 ～ 9月上旬	展着剤	ハイテンパワー 10,000倍(10cc)	—	—	400%		○この時期までに収穫が終了した園地では、せん孔細菌病対策のためインダーフロアブルに代えてテラフロアブル600倍(7日前/4回以内)を散布する。 ○収穫が終了した園地でモモハモグリガの発生が多い場合は、エクシレルSE5000倍(前日/3回以内)を散布する。
		灰星病、黒星病	インダーフロアブル 5,000倍(20cc)	前日	4回以内			
		ハマキムシ類、ケムシ類、シンクイムシ類、モモハモグリガ	エクシレルSE 5,000倍(20cc)	前日	3回以内			
⑬ /	収穫直後 (9月中旬)	せん孔細菌病	ICポルドー412 30倍(3.3kg)	—	—	400%		○収穫終了後、できるだけ早く散布する。 ○収穫中または、収穫前の晩生種には飛散しないよう注意する。
		固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—			
		ハマキムシ類、シンクイムシ類、アブラムシ類、モモハモグリガ、カメムシ類	スミチオン水和剤40 1,000倍(100g)	3日前	6回以内			
⑭ /	前回散布 10日後 (9月下旬)	せん孔細菌病	ICポルドー412 30倍(3.3kg)	—	—	400%		○ICポルドー412に代えてコサイト3000 2,000倍(収穫後～落葉まで/-)を散布しても良い。 ※コサイト3000を使用する場合は薬量軽減のためケフリン100倍(-/-)を加用する。 ○せん孔細菌病多発園地では10月中旬までにもう一度ICポルドー412 30倍(-/-)またはコサイト3000の2,000倍(収穫後～落葉まで/-)を追加散布する。
		固着性展着剤	アビオン-E 1,000倍(100cc)	—	—			
⑮ /	休眠期	コスカシバ	ガットキラー乳剤 100倍(1,000cc)	休眠期 (落葉期～ 萌芽前)	1回	350%		○縮葉病が多い園地では、12月中旬頃に石灰硫黄合剤10倍(発芽前/-)を散布する。 ○スミチオン水和剤40、カッター乳剤、カッターSは、同一成分を含み、総使用回数6回以内(樹幹処理は1回)とする。 ※総使用回数のカットは収穫後の防除からとなるので、翌年の防除の際は注意する。 コスカシバの注意 ○コスカシバの虫糞が出ているところを木づち等で軽くたたいて圧殺する。

この防除基準は、令和8年1月5日現在の適用内容により作成しています。

JA山形おきたま取り扱いの主な葉面散布(肥料・一般資材)

薬剤名	摘要	桜桃	ぶどう	りんご	西洋梨	もも
ピットグリーン 保証成分 7-6-4 苦土1	○海藻エキス・魚肉抽出物にN、P、K、Mgを配合した液肥。 ○初期生育を良好にして、葉の成葉化や果実の初期肥大を促進させる効果が期待できる。	葉色向上・初期生育確保 満開期 落花期 500倍	樹勢強化・初期生育確保 生育初期・GA処理前・開花直前 各500倍	葉色向上・初期生育確保 生育期 2~3回 500倍	樹勢強化・初期生育確保 生育初期~果実肥大期 2~3回 500倍	樹勢強化・初期生育確保 生育初期~果実肥大期 3回 500倍
ピットレッドC 保証成分 0-9-7	○海藻エキスにP、Kを配合した液肥。 ○葉の働きを良くし、果実品質向上効果が期待される。強樹勢で新梢停止が遅れるような樹では300倍で使用し、樹勢が極端に弱い樹ではグリーン500倍を加用する。	果実品質向上 5月下旬 6月上旬 6月中旬 500倍 (樹勢が強い場合は300倍、弱い場合はグリーンを 加用する。)	果実品質向上 顆粒肥大期~着色始期 2~3回 500倍 ※果粉容脱が懸念されるため棚上散布か袋かけ後に散布する。	果実品質向上 収穫1ヶ月前から3回 500倍 (ふじなどの晩生種は9月中旬から散布する)	果肉の充実・褐変防止 8月下旬・9月上旬 2~3回 500倍	果実品質向上 収穫1ヶ月前から2~3回 500倍
ベストII 保証成分 6-10-2	○魚肉抽出物と海藻ペーストにN,P,Kを配合した肥料。 ○葉を健全にし、果実品質の向上が期待できる。	葉の健全化・果実品質向上 収穫2~3日前頃と前回散布5日前後 500倍				
トップスコア・リン 保証成分 P30%-K13.2%- Mg2.7%	○高濃度垂リン酸液肥で吸収移行が早く、チッソ過多を解消する。 ○リン酸28%、カリ13%、マグネシウム3% ○果実品質向上に効果が期待できる。 ○翌年の花芽を充実させ貯蔵養分を高める。	肥大促進 収穫20日、10日前 2回 1,000倍 花芽充実・貯蔵養分促進 収穫後7~10日ごと 2回 1,000倍	果実品質向上 落花後~着色始期 2回 1,000倍 ※果粉容脱が懸念されるため棚上散布か袋かけ後に散布する。	果実品質向上 葉つみの7~10日前まで 2回 1,000倍 花芽充実・貯蔵養分増進 7月上・中・下旬の3回 1,000倍		果実品質向上・徒長枝抑制 収穫20日、10日前の2回 1,000倍
エイトビー ホウ素8%	○チッソ2.5%、カリ5.5%、マンガン0.25%、ホウ素8.0% 花芽分化・細胞分裂、結実促進が期待できる。	花梗の充実・花芽の充実 開花前後~果粒肥大期~収穫直後 各2~3回程度 2,000倍	花振るい・葉の健全化 展葉5~7、開花期、落花期 1,000倍			
サンライクSK	○キトサン、完熟発酵鶏糞の抽出液、各種有機酸、生珪酸0.8%、マンガン0.1%、ホウ素2.2%を含有した葉面散布用資材である。 ○定期的な散布により、厚みのある健全な葉づくりと、収量の増加、果実品質向上など、果実本来の良さが引き出せることが期待できる。		生育促進・収量増加・果実品質向上 生育初期~収穫期 1,000倍			
葉友 保証成分 5-0.1-0.5	○約20種類のアミノ酸を高濃度濃縮した、植物生理活性肥料 ○植物の葉や根から素早く吸収され、健全な生育を助ける効果が期待できる。 ○葉に活力を与え、葉の老化を防ぐとともに、花芽を充実させる働きが期待されるので、散布時期や混用する農薬を選ばない。(ポルドーや有機銅剤も可)		葉の健全化・花芽の充実・果実品質向上 生育初期~落葉期 1,000倍			
ヨーヒB5 保証成分 2-5-4-Mg3 ホーソ5-Mn1 その他微量元素含む	○苦土やホウ素、その他多くの微量元素を含んだ葉面散布肥料。 ○春先の日照不足や、貯蔵養分不足等により葉色が薄い場合等、成葉化促進に有効である。 ○各生理作用を活発にし、光合成を促進する。 ○開花結実の確保、開花促進が期待できる。 ○その他ヨーヒには、栄養、生殖生長用や苦土、カルシウム単肥もある。	花芽の充実・果実品質向上 開花期~収穫後 1,000倍	樹勢回復・花振れ防止・貯蔵養分の蓄積 生育初期・GA処理前・開花直前 各1,000倍	初期生育・新葉の緑化・細胞分裂・糖の転流の促進・貯蔵養分の蓄積 開花直前~収穫後まで 1,000倍	初期生育の確保・樹勢強化・光合成促進・果実品質向上・貯蔵養分蓄積 展葉期~果実肥大期 1000倍	樹勢の強化・光合成促進・果実品質向上 養分転換期~硬核期~果実肥大期 1000倍
ロイヤルシリカMG ゼオライト70%	○ゼオライト70%にチッソ1.2%、リン酸8.4%、カリ1.4%、苦土3.5%、鉄0.4%を添加した多孔質乾燥促進剤である。乾燥力が強く、花弁がカサカサに乾いて落ちやすくなる。	落弁促進・乾燥促進(花カス取り作業軽減) 落花期 700倍	乾燥促進(花カス取り作業軽減) 落花期 700倍			
シンキョーゼオ ゼオライト+1-7-2	○ゼオライトに窒素・リン酸・カリを加えた葉面散布肥料。乾燥効果による落弁効果が期待される。安価。		乾燥促進(花カス取り作業軽減) 落花期 1,000倍			
アイスバリア p1.5-k1.0-Mg1.5	トレハロース入り液肥で、樹液濃度、樹体内水分の浸透圧を高めることにより耐寒性を高める。霜、低温の前や凍霜害が懸念される期間に数回散布することにより、被害の軽減が期待される。			霜・低温対策 芽出し10日後から 333倍		
アミノベスト 7-1-1-Mn0.07%	○植物由来(大豆)のアミノ酸18種類入り。 ○ブドウ糖(グルコース)5%配合。微量元素入り。 ○品質向上のほか、りんごの摘果促進効果が期待できる。	果実品質向上 開花期以降 1,000倍				
液体ハイカルック カルシウム10% ホウ素 1%	○吸収の早い有機酸カルシウムと、ホウ素の相乗効果でさらに吸収が高まります。 ○汚れが少なく、垂リン酸資材トップスコアリンと混用可能です。	果実品質向上 着色期から(6/上~6/下)2~3回 各1,000倍				
パワーシグマII ケイ酸69.4%	○果面保護(薬害軽減)が期待できるため、サビの出やすい薬剤散布時期に加用する。 (リフレッシュの代替資材)			果面保護・薬害軽減 落花直後~7月下旬 1,000倍	果面保護・薬害軽減 満開10日後~7月下旬 1,000倍	
バイカルティ CaO34%	カルシウム補給で果実品質向上が期待できる。 ○付着性が良く、カルシウム吸収効果を促進する。 ○水に溶けやすく、成分の一部が被膜を形成し、白く汚れない。 ○速乾性のため、薬害軽減効果あり	乾燥促進(花カス取り作業軽減)・Ca補給 開花後から2回 1,000倍 果実品質向上・日持ち性向上 満開25日後から2~3回 1,000倍	Ca補給(日持ち性向上・果皮強化) 落花期 1,000倍 ※エイトビーと混用で相乗効果あり	ビタービット・油上がり・軟化・徒長抑制・果面保護 落花直後~7月下旬 1,000倍 ※垂リン酸資材 トップスコアリンとの混用可能 (別々に溶かしたものを混用する)	石ナシ・尻腐れ・内部褐変防止・果面保護 満開10日後~7月下旬 1,000倍	日持ち性向上・硬度向上・内部褐変防止 落花直後から3~4回 1,000倍 (早生種3回、中・晩生種4回)

農薬混用一覧表（アウトウ：試験品種は不明）

●：混用可 ○：直前混用可 ★：JAの防除暦で混用の事例有 ×：混用不可 [更新日：令和8年2月]

殺菌剤 殺虫剤	殺菌剤																																				
	IC	Z	ア	ア	ア	イ	オ	オ	オ	オ	カ	キ	キ	コ	サ	ス	ス	タ	チ	ド	ト	ト	ト	ナ	ハ	ハ	フ	フ	フ	ベ	ベ	ベ	ム	ロ	右		
	ホル	ポ	フェ	スタ	ン	ン	ー	ー	ン	ナ	ノ	ャ	サイ	ン	コ	ミ	イ	オ	キ	ト	ト	レ	リ	ス	ワ	レ	ン	ン	ル	ル	ン	ン	ン	ン	ン	ン	灰
	ド	ル	ット	10	ビ	ダ	ー	ー	ン	メ	ン	レ	ド	リ	サ	レ	バ	ノ	ン	ッ	ッ	ノ	ク	ワ	ド	ド	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	ン	硫	
	6	ド	フロ	フロ	フロ	フロ	フロ	水	水	フロ	フロ	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	合		
	6	6	ア	ア	ア	ア	和	和	ア	ア	ア	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	剤	
	D	1	ル	ル	ル	ル	0	0	ル	ル	ル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アーデントフロアブル					●	●				●	●													●													
アカリタッチ乳剤					●	●																		●													
アクタラ顆粒水溶剤			●	●	●	●	●			●				●	●	●								●	●	●										●	
アグロスリン水和剤			●	●			●	●																●													
アタブロンSC		●	●	●	●	●	●	●		●			●								●	●	●	●	●	●	●									●	
アディオフロアブル			●	●		●	●	●	×		●			●	●	●			●		●	●	●	●	●	●	●									●	
アディオン水和剤			●	●		●	●	★		●														●													●
アブロードフロアブル			●			●		●					●								●	●		★	●												
エクシレルSE				●		●		●		●														●													●
カスケード乳剤			●			●	●	●		●				●		●								●													●
カネマイトフロアブル			●		●	●	●	●		●				●	★	●							●	●	●	●	●								●	×	
ガットキラー乳剤																																					
コテツフロアブル	●		●	●	●	●		●	●	●			●										●	●	●	●	●	●								●	
コロマイト乳剤			●			●		●	●															●													
サムコルフロアブル10				●	●	●		●		●	1		●	※1		●	●	●					●	●	●	●	●									●	
サンマイト水和剤	●		●			●		●		●														●													●
スカウトフロアブル			●	★		●	●	●		●				●	●	●			●		●	●	●	●	●	●	●									●	
スタークル顆粒水溶剤			●	●	●	●	●	●		●			●										●	●	●	●	●	●									●
スターマイトフロアブル					●			●	●	●			●										●														
スミチオン水和剤40			●																					★													
スミチオン乳剤			●			●																															
ゼンターリ顆粒水和剤																																					
ダイアジノン水和剤34	★		●		●	●	●	★	★	●				●	●							★	●	●	★	●										●	
ダニオーテフロアブル	×	×		●	●	●	●	●	×	●	1	×	×		●						×	●		●	●	●	●								×	●	
ダニゲッターフロアブル	×			●						●														●	●	●	●										
ダニコングフロアブル	×	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ダニサラバフロアブル			●	●	●	●	●	●	●	●		●											●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ダントツ水溶剤			●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●							●	●	●	●	●	●								●	
ディアナWDG						★				★	●																										
テルスターフロアブル			●	●	●	●	●	○	●	●				●	●								●	●	●	●	●									●	
デルフィン顆粒水和剤					●																			●	●												
ニツソラン水和剤			●			●		●																●	●	●	●	●									●
バイオマックスDF			●	●	●	●	●	●	●	●			●		★								●	●	●	●	●									●	
バイスロイドEW			●	●	●	●	●	●	●	●						★	●						●	●	●	●	●									●	
バリアード顆粒水和剤			●					★		●													★														
バロックフロアブル	×		●	●	●	●	●	○	●			●		●	●	●							●	●	●	●	●									●	
ピラニカEW			●			●		●																●	●	●	●										●
ピラニカ水和剤			●	●	●	●	●	●						●									●	●	●	●	●										●
フェニックスフロアブル	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●										●	●	●	●	●										●
マイトコーネフロアブル			●	●	●	●	●	●	●	●	1				●								●	●	●	●	●									●	
マトリックフロアブル			●			●		●		●					●									●	●	●	●										●
マブリック水和剤20				●																				●	●	●	●										●
マラソン乳剤			●																					●	●	●	●										●
モスピラン顆粒水溶剤			●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●						●	●	●	●	●									●	
ロディー水和剤			●																					●	●	●	●										●
ロムダンフロアブル			●			●	●																	●	●	●	●										●

●※1：葉への薬害は認められなかったが、着色期以降は果実への着色障害が起こる可能性があるため混用散布時期に注意
記号の左となりの数字は例数です（例●1：1例問題なかった）。

ぶどう農薬混用事例(殺虫・殺ダニ剤ー殺虫・殺ダニ剤)

殺虫・殺ダニ剤	ア ー デ ン ト	ア グ ロ ス リ ン	ア デ ィ オ ン	※1 ア デ ィ オ ン	ア ド マ イ ヤ ー	ア ド マ イ ヤ ー	※2 ア プ ロ ー ド	※2 ア ベ ン ジ ャ ー	エ ク シ レ ル S E	カ ネ マ イ ト	グ レ ー シ ア	コ テ ツ	コ ル ト	コ ロ マ イ ト	サ ム コ ル	サ ン マ イ ト	ス カ ウ ト	ス タ ー ク ル	ス ミ チ オ ン	ゼ ン タ ー リ	ダ イ ア ジ ノ ン	ダ ニ コ ン グ	ダ ニ サ ラ バ	ダ ニ ト ロ ン	ダ ン ト ツ	デ ィ ア ナ	テ ッ パ ン	ト ク チ オ ン	ニ ッ ソ ラ ン	バ イ ス ロ イ ド	※1 パ ダ ン S G	バ ロ ッ ク	ピ ラ ニ カ	フ ェ ニ ッ ク ス	フ ェ ニ ッ ク ス	マ イ ト コ ー ネ	モ ス ピ ラ ン	モ ベ ン ト	ロ デ ィ ー																		
殺虫・殺ダニ剤	(水)	(SG)	(FL)	(水)	(WG)	(FL)	(WG)	(DF)	(FL)	(水)	(水)	(液)	(FL)	(FL)	(WG)	(水)	(水)	(FL)	(SG)	(FL)	(水)	(水)	(液)	(水)	(FL)	(FL)	(水)	(水)	(WG)	(水)	(水)	(WG)	(水)	(水)	(WG)	(水)	(水)	(WG)	(水)	(水)	(WG)	(水)	(水)	(WG)	(水)	(水)	(WG)										
ア ー デ ン ト (水)	-	●	●	●																																																					
ア ー デ ン ト (FL)					●																																																				
ア グ ロ ス リ ン (水)	●				●																																																				
ア デ ィ オ ン (水)	●																																																								
※1 ア デ ィ オ ン (FL)	●				●																																																				
ア ド マ イ ヤ ー (水)	●		-		●																																																				
ア ド マ イ ヤ ー (FL)					●																																																				
※2 ア プ ロ ー ド (FL)	●	●	●	●	-																																																				
※2 ア ベ ン ジ ャ ー (FL)					●																																																				
エ ク シ レ ル S E (FL)	●				●																																																				
カ ネ マ イ ト (FL)					●																																																				
グ レ ー シ ア (FL)	●	●	●	●	●																																																				
コ テ ツ (FL)	●	●	●	●	●																																																				
コ ル ト (WG)	●	●	●	●	●																																																				
コ ロ マ イ ト (水)	●		●	●	●																																																				
サ ム コ ル (FL)	●	●			●																																																				
サ ン マ イ ト (水)	●		●	●	●																																																				
ス カ ウ ト (FL)	●				●																																																				
ス タ ー ク ル (SG)	●				●																																																				
ス ミ チ オ ン (乳)	●				○																																																				
ゼ ン タ ー リ (WG)																																																									
ダ イ ア ジ ノ ン (水)	●				●																																																				
ダ ニ コ ン グ (FL)	●	●	●	●	●																																																				
ダ ニ サ ラ バ (FL)	●	●	●	●	●																																																				
ダ ニ ト ロ ン (FL)	●	●	●	●	●																																																				
ダ ン ト ツ (溶)					●																																																				
デ ィ ア ナ (WG)																																																									
テ ッ パ ン (液)	●				●																																																				
ト ク チ オ ン (水)					●																																																				
ニ ッ ソ ラ ン (水)					●																																																				
バ イ ス ロ イ ド (EW)					●																																																				
※1 パ ダ ン S G (溶)	●																																																								
バ ロ ッ ク (FL)					●	●	●																																																		
ピ ラ ニ カ (水)	●	●	●	●	●																																																				
フ ェ ニ ッ ク ス (FL)	●	●	●	●	●																																																				
フ ェ ニ ッ ク ス (WG)	●	●	●	●	●																																																				
マ イ ト コ ー ネ (FL)	●				●	●	●																																																		
モ ス ピ ラ ン (SG)					●																																																				
モ ベ ン ト (FL)	●	●	●	●																																																					
ロ デ ィ ー (水)	●				●																																																				

(注)混用に当たっては「混用事例集についての注意事項」と各薬剤のラベルをよく読んで使用する。
 ※1：アディオン(FL)、パダンSG(溶)のぶどうでの登録は「大粒種ぶどう」のみ。
 ※2：アブロード(FL)とアベンジャー(FL)、ファインセーブ(FL)を混用する場合は、袋掛け後の散布に限る(果粉溶脱)。

農薬の作用機構分類 (RACコード)

殺虫剤					殺菌剤								
No.	農薬名	系統名	有効成分①	IRAC①	有効成分②	IRAC②	No.	農薬名	系統名	有効成分-1	FRAC①	有効成分-2	FRAC②
1	オリオン	カーバメート系	アズニカブ	1A			1	トリアジンM	MBC剤	チオファネートメチル	1		
2	オンコル		ベンフラカブ	1A			2	ベニレート		ベニレート	1		
3	ガゼット		カルボスルファン	1A			3	スミックス		プロロジン	2		
4	ミクロテナホン		NAC	1A			4	ロブテール		イプロジオン	2		
5	ランネート	有機リン系	メスル	1A			5	アズニル	EBI剤 (DMI剤)	ヘキサゾール	3		
6	シノイエース		アセフェート	1B			6	イソダール		ヘキサゾール	3		
7	オムロン		MEP	1B			7	オニシヤイン		オキスホスゾールフルマル酸塩	3		
8	ミチオン		MEP	1B			8	オニリーワン		ヘキサゾール	3		
9	ガクキラー		MEP	1B			9	スロア		シノフエゾール	3		
10	エムサン		PAP	1B			10	トリフミン		トリフルゾール	3		
11	ダイアジン		ダイアジン	1B			11	マネージ		イマノコゾール	3		
12	マラン		マラン	1B			12	ラウ		ミロロニル	3		
13	キョウフ		エチプロール	2B			13	ルビゲン		フェナピル	3		
14	アリス		アゾロニル	2B			14	サソリ		シノゾール	3		
15	アーク	アクリナリン	3A			15	テーク	シノゾール	3	マンゼブ	M3		
16	アクリン	シハルトリ	3A			16	アスハイ	ヘキサゾール	3	マンゼブ	M3		
17	アクリン	ベルトリ	3A			17	ウシニコールMZ	フェニルアミド系	4	マンゼブ	M3		
18	サイロ	シハロ	3A			18	アズワン	ジチオラン	6				
19	カクト	トラロ	3A			19	アフェト	SDHI剤	ペンチオト	7			
20	テラスター	ビエトリ	3A			20	フルニクセハイ		ヘキサゾール	7			
21	トホ	エトフプロックス	3A			21	ハレード		ヒラジメト	7			
22	ハイロイ	ジフル	3A			22	カチ		イソフルキサム	7			
23	ハイマ	フンバレー	3A	MEP	1B	23	パンタック		メロニル	7			
24	マリック	フルバリー	3A			24	ネクスター		イプロラザム	7			
25	ロイ	フンバロ	3A			25	オルビクス		フルロラム	7	テブゾール	3	
26	ロイ					26	カクス		ホスカド	7			
27	アキラ	チアキサム	4A			27	ネクスター		イプロラザム	7			
28	トマイ	イミダクロ	4A			28	ケンジャ		イプロラザム	7			
29	アル	ジノ	4A			29	フルカ	メニロ	9				
30	スター	クワ	4A			30	ユニクス	シノロニル	9				
31	ダウ	クワ	4A			31	スイ	シノロニル	9	フルシオキ	12		
32	ハイ	チア	4A			32	ニマイ	シノロニル	10	ベニ	1		
33	ベスター	ニシ	4A			33	ケッター	シノロニル	10	チオファネート	1		
34	モス	アセ	4A			34	スプレ	シノロニル	10	アロ	2		
35	トランス	スルホ	4C			35	アスター	QOI剤	アズニク	11			
36	シノ	スビ	5			36	ストロ		クレスキ	11			
37	ディ	スビ	5			37	フリ		トリロ	11			
38	ディ	スビ	5			38	スレ		マン	11			
39	ニキ	レ	6			39	ナリ		ヒラ	11	ホスカド	7	
40	ア	エ	6			40	ホ		ク	11	シ	27	
41	ア	シ	6			41	ク		ク	11			
42	チ	ヒ	9B			42	ム		ク	11A			
43	コ	ヒ	9B			43	セ		フェニル	ク	12		
44	コ	ヒ	10A			44	ハ			KRI	ク	17	
45	ハ	ヒ	10B			45	ヒ	抗生物質	ク		17		
46	ハ	ヒ	11A			46	ホ		QII	ク	21		
47	エ	ヒ	11A			47	ラ	ク		ク	21		
48	フ	ヒ	11A			48	ラ		ク	ク	21		
49	テ	ヒ	11A			49	ド	ク		ク	21	TPN	M5
50	ア	ヒ	11A			50	エ		ク	ク	22		
51	ア	BT	11A			51	カ	ク		ク	24	塩	M1
52	オ	BT	12C			52	ア		ク	ク	25		
53	テ	テ	12D			53	ス	ク		ク	25		
54	コ	ク	13			54	ホ		シ	ク	27	ク	11
55	ハ	ク	14			55	ベ	ク		ク	27	ク	40
56	ア	ク	15			56	カ			ク	ク	27	ク
57	カ	ク	15			57	ア	ク			ク	29	
58	カ	ク	15			58	ス			ク	ク	31	
59	テ	ク	15			59	カ	ク			ク	40	ク
60	ノ	ク	15			60	レ			ク	ク	40	
61	マ	ク	15			61	エ	ク			ク	40	
62	ア	ク	16			62	マ			ク	ク	41	
63	ア	ク	16	ク	21A	63	サ	ク			ク	45	ク
64	ア	ク	18			64	オ		ク	ク	49	ク	40
65	ト	ク	18			65	ゾ	ク		ク	49		
66	ロ	ク	18			66	ア		ク	ク	50		
67	ダ	ア	19			67	キ	ク		ク	52		
68	カ	ア	20B			68	IC		ク	ク	M1		
69	マ	ア	20D			69	ズ	ク		ク	M1		
70	サ	ア	21A			70	ゴ		ク	ク	M1		
71	ダ	ア	21A			71	ホ	ク		ク	M1		
72	ヒ	ア	21A			72	オ		ク	ク	M1		
73	マ	ア	21A			73	キ	ク		ク	M1		
74	ダ	ア	23			74	ト		ク	ク	M1		
75	エ	ア	23			75	石	ク		ク	M2		
76	スター	ア	25A			76	ヘ		ク	ク	M3		
77	ダ	ア	25A			77	ジ	ク		ク			
78	ダ	ア	25B			78	チ		ク	ク	M3		
79	エ	ア	28			79	ト	ク		ク			
80	サ	ア	28			80	ア		ク	ク	M3		
81	テ	ア	28			81	オ	ク		ク	M4	ク	M1
82	レ	ア	28			82	オ		ク	ク	M4		
83	エ	ア	28			83	キ	ク		ク	M4		
84	ヨ	ア	28			84	フ		ク	ク	M4	ク	7
85	ウ	ア	29			85	ダ	ク		ク	M5		
86	ク	ア	30			86	ハ		ク	ク	M5		
87	ダ	ア	33			87	ダ	ク		ク	M7	ク	M4
88	粘	ア	「-」			88	ハ		ク	ク	M7		
89	コ	ア	「-」			89	テ	ク		ク	M9		
90	ト	ア	「-」			90	ス		ク	ク	M11		
91	ア	ア	「-」			91	ア	ク		ク	P7	ク	M4
92	ハ	ア	「-」			92	イ		ク	ク	BM2		
93	マ	ア	「-」			93	エ	ク		ク	BM2		
94	ア	ア	UNE			94	ホ		ク	ク	BM2		
95	コ	ア	「-」	「-」				ク		ク			
96	コ	ア	「-」	「-」					ク	ク			
97	ス	ア	「-」	「-」				ク		ク			
98	ハ	ア	「-」	「-」					ク	ク			
99	シ	ア	「-」	「-」				ク		ク			

※果樹に適用のない薬剤も記載されていることから、使用に際しては登録内容を確認する。
 2. 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同じ系統剤の連用を避け、異なる系統の薬剤とのローテーション使用を行う。
 3. 農薬を選択するためには、有効成分がどの系統に属しているかを確認する必要がある。
 コード名(殺虫剤はIRAC、殺菌剤はFRAC、除草剤はHRACコード)が同じ場合は有効成分が同一系統に属する。
 4. ただし、殺虫剤については、IRACコードの数字が同じ薬剤は、なるべく連用を避けます。しかし、他に有効な農薬がない場合はアルファベットの異なる薬剤を次回に使用する。

殺ダニ剤の登録一覧表

(2026年用)

J A全農山形 資材エネルギー部 肥料農業課

2025年11月28日 作成

Table with columns: IRACコード, 薬剤名, ナミハダニ, リンコハダニ, 感受性の低下実績, オウトウハダニ, チャノホコリダニ, サビダニ, ホルダニ, 希釈倍数 (りんご, おとうとう, もも, ぶどう, なし, きゅうり, トマト, なす, すいか, いちご, メロン, かき, 菊(花き), 食用ぎく, ばら), 特, 性, お, よ, び, 注, 意, 事, 項

※1：()内に表示されている記載については、各県ならびに本会農業研究室の試験結果ならびにメーカーの情報を参考に県本部独自で評価した内容となっています。

※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容を再度ご確認ください。なお、記載している希釈回数については、登録濃度の高い希釈回数のみを記載しています。

※各薬剤共、ホルダー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるので留意願います。

※殺ダニ剤は抵抗性出現を防止するため同一成分及び同一系統(IRACコードを確認する)の薬剤は年一回の使用を厳守する。但し、気門封鎖剤(アカリタッチ乳剤)は除く。

記入例

JA山形おきたま 令和00年度 さくらんぼ-薬剤防除実績 1頁(*)

支所コード(*)	生産者番号(*)	生産者名	電話番号	圃場名・面積	
100	110000000	置賜太郎	0238-99-9999	/ / a	
履歴番号(*)	履歴名	品種名	播種日	定植日	収穫終了日
215	さくらんぼ	佐藤錦			7月5日

★防除実施日を記入し、該当農薬に○印を記入してください。

農薬登録番号 または 農薬番号	【種類名】 農薬名	【本剤使用回数】	希釈 使用 濃度	防除回数															
				1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目							
91412	殺虫剤 ハーベストオイル	-回	50倍		○														
90002	殺虫剤 石炭硫黄合剤	-回	10倍		○														
90836	殺菌剤 トップジンMペースト	3回以内	1倍																
91074	殺菌剤 バッチレート	3回以内	1倍																
94509	殺菌剤 トレノックスフロアブル	21日前5回以内	500倍																

例)4/22にトレノックスフロアブル500倍を散布した場合は、このように記載して下さい。

【記入方法】
 上段に散布日を記入し、左記から使用した農薬を選んで「○」を付けるだけの簡単な帳簿方法を採用しています。※日付(散布日)と連動しますので、1枚目・2枚目の防除回数は関係ありません。日付が前後してもOKです。
 また、展着剤や葉面散布剤は記入しないで下さい。(農薬・除草剤・植物調整剤のみ記入)

収穫開始日(*) 出荷検査に該当の収穫開始日を左から順番に記入
 6月20日 7月1日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日

出荷量 上記出荷検査に該当の出荷量を収穫開始日の下に記入

002 生産者確認

提出日: ○年6月18日

署名: 置賜太郎

収穫開始日・自署・捺印は1枚目、2枚目両方に記入

文字は枠内にきれいな字で記入下さい。間違った場合は修正テープで消して下さい。

JA山形おきたま 令和00年度 さくらんぼ-薬剤防除実績 2頁(*)

支所コード(*)	生産者番号(*)	生産者名	電話番号	圃場名・面積	
100	110000000	置賜太郎	0238-99-9999	/ / a	
履歴番号(*)	履歴名	品種名	播種日	定植日	収穫終了日
215	さくらんぼ	佐藤錦			

★防除実施日を記入し、該当農薬に○印を記入してください。

農薬登録番号 または 農薬番号	【種類名】 農薬名	【本剤使用回数】	希釈 使用 濃度	防除回数															
				1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目							
98005	殺菌剤 エクシレルSE	1日前3回以内	2500倍																
93780	殺菌剤 インダーフロアブル	1日前2回以内	5000倍																
97603	殺菌剤 アージェントフロアブル	1日前3回以内	2000倍																
93894	殺菌剤 スタークル顆粒水溶剤	1日前2回以内	2000倍																
90268	殺菌剤 スミチオン水和剤40	14日前2回以内	800倍																
92717	殺菌剤 コロマイト乳剤	7日前1回	1000倍																
94683	殺菌剤 ダニゲッターフロアブル	1日前1回	2000倍																
91577	殺菌剤 ナキシンドー水和剤80	3回以内	1200倍																
90088	殺菌剤 ダイアジン水和剤34	3回以内	1000倍																
93047	殺菌剤 コテツフロアブル	14日前2回以内	2000倍																
93396	殺菌剤 アブロードフロアブル	7日前2回以内	1500倍																
95300	殺菌剤 フェニックスフロアブル	1日前2回以内	4000倍																
91631	殺菌剤 ラビキラー乳剤	1回	200倍																
90794	殺菌剤 フジワン粒剤	2回以内																	
95440	殺菌剤 ザクサ液剤	1日前3回以内	300ml/10a																
91620	殺菌剤 バスタ液剤	1日前3回以内	300ml/10a																
94481	殺菌剤 ナリアW04	1回	2000倍																
94509	殺菌剤 トレノックスフロアブル	21日前5回以内	500倍																
92807	殺菌剤 ICボルドー66D	1回	40倍																

記載がない農薬や倍数が異なる場合は手書きで記入下さい。

枠内は機械で読み取る範囲となるので、記入する場合は枠内とし、はみ出さないよう記入下さい。

収穫開始日(*) 出荷検査に該当の収穫開始日を左から順番に記入
 6月20日 7月1日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日

出荷量 上記出荷検査に該当の出荷量を収穫開始日の下に記入

002 生産者確認

提出日: ○年6月18日

署名: 置賜太郎

複数の品種がある場合は、枠外にどの品種がいつから収穫されたか記入下さい。

農薬コード表(対象作物:果樹)

それぞれの品目での登録内容を確認して使用ください。
 数字⇒アルファベット⇒カタカナ⇒漢字の順で並んでいます。

コード	名称	用途	コード	名称	用途	コード	名称	用途
90042	95マシン	殺虫剤	99055	アベンジャーフロアブル	殺虫剤	90397	カーメックスD	除草剤
93641	CX-10	植物成長調整剤	93414	アミスター10フロアブル	殺菌剤	92749	カスケード乳剤	殺虫剤
90632	DCMU水和剤	除草剤	91504	アリエッティC水和剤	殺菌剤	92430	ガスタード微粒剤	殺虫殺菌除草剤
81142	ICジンク水和剤	殺菌剤	91537	アリエッティ水和剤	殺菌剤	91199	カスミンボルドー	殺菌剤
92806	ICボルドー412	殺菌剤	92351	アルタペールフロアブル	殺虫殺菌剤	91020	カソロン粒剤4.5	除草剤
92808	ICボルドー48Q	殺菌剤	93891	アルバリン粒剤	殺虫剤	91056	カソロン粒剤6.7	除草剤
92807	ICボルドー66D	殺虫殺菌剤	93895	アルバリン顆粒水溶剤	殺虫剤	93282	カタナ水和剤	除草剤
91453	K. Kステッカー	その他	93521	アントラコール顆粒水和剤	殺菌剤	81175	カダンMAX	殺虫殺菌剤
90186	NCS	殺虫殺菌除草剤	92429	アンビルフロアブル	殺菌剤	93961	カダンセーフ	殺虫殺菌剤
94525	Y-ハッテン	その他	90422	アンレス	殺菌忌避剤	98875	カダンセーフ2	殺虫殺菌剤
90136	Zボルドー	殺菌剤	92304	イオウフロアブル	殺虫殺菌剤	94910	カダンセーフ原液	殺虫殺菌剤
94354	アークリン水和剤	殺虫剤	94804	イカズチWDG	殺虫剤	81174	カダンベジMAX	殺虫殺菌剤
97603	アーデントフロアブル	殺虫剤	96358	イデクリーン水和剤	殺虫殺菌剤	98510	カチオンプラス	その他
92943	アーデント水和剤	殺虫剤	93780	インダーフロアブル	殺菌剤	98888	カッシーニフロアブル	殺菌剤
94463	アーリーセーフ	殺虫殺菌剤	97942	インプレッションクリア	殺菌剤	90669	ガットキラー乳剤	殺虫剤
81277	アイーナ20フロアブル	殺菌剤	94482	ウララDF	殺虫剤	90835	ガットサイドS	殺虫剤
96571	アイヤーエース	その他	91440	エアータック乳剤	殺虫剤	91609	カッパーシン水和剤	殺菌剤
93776	アカリタッチ乳剤	殺虫殺菌剤	92879	エイトアップ液剤	除草剤	98584	カナメフロアブル	殺菌剤
98517	アクサーフロアブル	殺菌剤	98005	エクシレルSE	殺虫剤	93550	カネマイトフロアブル	殺虫剤
94904	アクセルフロアブル	殺虫剤	81286	エコアーク	殺菌剤	98867	カビナイスPZ水和剤	殺菌剤
93822	アクタラ顆粒水溶剤	殺虫剤	94333	エコショット	殺菌剤	92702	カリグリーン	殺菌剤
90050	アグリマイシン-100	殺菌剤	94358	エコビタ液剤	殺虫殺菌剤	93636	カルナクス	除草剤
95184	アグレイド	その他	94057	エコマイト顆粒水和剤	殺虫剤	94479	カルビオ	殺菌剤
90937	アグレプト液剤	殺菌植調剤	94582	エコマスターBT	殺虫剤	90949	カルホス微粒剤F	殺虫剤
90152	アグレプト水和剤	殺菌剤	94147	エコルーキー	植物成長調整剤	98815	カレター	除草剤
94933	アグロケア水和剤	殺菌剤	93370	エスマルクDF	殺虫剤	94275	カンタスドライフロアブル	殺菌剤
91966	アグロスリン水和剤	殺虫剤	90754	エスレル10	植物成長調整剤	97543	カンパネラ水和剤	殺菌剤
94725	アスパイア水和剤	殺菌剤	97639	エトフィンフロアブル	殺菌剤	95187	キックオフ顆粒水和剤	殺虫剤
90942	アタッキン水和剤	殺菌剤	99045	エビート顆粒水和剤	殺菌剤	92476	キノドーフロアブル	殺菌剤
90588	アタックオイル	殺虫植調剤	90446	エムダイファー水和剤	殺菌剤	90303	キノドー水和剤40	殺菌剤
92622	アタブロンSC	殺虫剤	90352	エルサン水和剤40	殺虫剤	91112	キノドー水和剤80	殺菌剤
95250	アップライト	その他	94996	オーシャインフロアブル	殺菌剤	97975	キノドー顆粒水和剤	殺菌剤
92484	アディオフロアブル	殺虫剤	93649	オーシャイン水和剤	殺菌剤	90580	キヒゲン	殺虫殺菌忌避剤
91710	アディオ水和剤	殺虫剤	90440	オーソサイド水和剤80	殺菌剤	94140	キャピタルグリホサート41%	除草剤
91709	アディオ乳剤	殺虫剤	97960	オールスタースプレー	殺虫剤	90927	キャプレート水和剤	殺菌剤
92774	アドマイヤーフロアブル	殺虫剤	90584	オキシベロン液剤	植物成長調整剤	97520	キュープロフィックス40	殺虫殺菌剤
92647	アドマイヤー水和剤	殺虫剤	94145	オキシラン水和剤	殺菌剤	94277	キラップフロアブル	殺虫剤
93640	アドマイヤー顆粒水和剤	殺虫剤	91577	オキシンドー水和剤80	殺菌除草剤	81205	キワミPZ水和剤	殺菌剤
92008	アドミックス	その他	90319	オマイト水和剤	殺虫殺菌剤	81275	キワミフロアブル	殺菌剤
95167	アニキフロアブル	殺虫剤	95253	オラクル顆粒水和剤	殺菌植調剤	91190	キンセット水和剤	殺菌剤
90616	アビオン-E	その他	92750	オリオン水和剤40	殺虫剤	92585	キンセット水和剤80	殺菌剤
94759	アフエットフロアブル	殺菌剤	92661	オレート液剤	殺虫殺菌剤	93553	クオークフロアブル	殺虫剤
98449	アフターエイドフロアブル	除草剤	98500	オロンディスウルトラSC	殺菌剤	94355	クサキングエースフロアブル	除草剤
91617	アブローチBI	その他	93937	オンリーワンフロアブル	殺菌剤	95616	クサクリア	除草剤
93497	アブロードエースフロアブル	殺虫剤	93325	カーゼートPZ水和剤	殺菌剤	93401	クサクリーン液剤	除草剤
93396	アブロードフロアブル	殺虫剤	97555	ガーデンアシストVスプレー	殺虫剤	90744	クサトルFP水溶剤	除草剤
91581	アブロード水和剤	殺虫剤	98951	ガーデンアシストWスプレー	殺虫殺菌剤	95153	クサトリーナ	除草剤
91434	アブロン	その他	99081	ガーデンアシストビュースプレー	殺虫殺菌剤	94367	クサトリキング	除草剤

コード	名称	用途	コード	名称	用途	コード	名称	用途
94117	クサトローゼ	除草剤	94042	サンダーボルト007	除草剤	91380	ストップール液剤	植物成長調整剤
93275	クサブロー	除草剤	90323	サントクテン80	その他	90495	ストマイ液剤20	殺菌剤
98307	クプロザートフロアブル	殺虫殺菌剤	92878	サンフーロン液剤	除草剤	94352	ストライド顆粒水和剤	殺菌剤
98308	クプロシールド	殺虫殺菌剤	97926	ザンプロDMフロアブル	殺菌剤	93342	ストロビードライフロアブル	殺菌剤
98803	クミガードSC	殺菌剤	97925	ザンプロフロアブル	殺菌剤	94770	スパイカルEX	殺虫剤
90394	クミテン	その他	90920	サンボルドー	殺菌剤	96334	スパイカルプラス	殺虫剤
94652	クミテンエース	その他	92466	サンマイル水和剤	殺虫剤	99121	スパイカルプラスUM	殺虫剤
92117	クムラス	殺虫殺菌剤	93992	サンリット水和剤	殺菌剤	92929	スパイデックス	殺虫剤
90524	グラスチックー	その他	92766	ジーファイン水和剤	殺菌剤	99112	スパイデックスバイタル	殺虫剤
81282	グラミンP	その他	98176	システムスワルくん	殺虫剤	81186	スパイナーフロアブル	殺菌剤
98406	グリーンスキットシャワー	除草剤	98983	システムスワルくんロング	殺虫剤	93545	スピノエースフロアブル	殺虫剤
92877	グリホエクス液剤	除草剤	98181	システムミヤコくん	殺虫剤	90340	スピンドロン乳剤	殺虫剤
94135	グリホキング	除草剤	93264	シトラノフロアブル	殺菌剤	91479	スプレイザー	その他
98453	グリホス液剤	除草剤	90168	ジベラ錠	植物成長調整剤	94654	スプレイザーエース	その他
99152	グレーシアフロアブル	殺虫剤	90185	ジベラ錠5	植物成長調整剤	90454	スプレーオイル	殺虫殺菌剤
90388	クレフノン	その他	90169	ジベレリン	植物成長調整剤	97948	スマートフレッシュ タブ	植物成長調整剤
90003	クロールピクリン	殺虫殺菌除草剤	91133	ジベレリンペースト	植物成長調整剤	98856	スマートフレッシュ フロタBY	植物成長調整剤
90219	クロピク80	殺虫殺菌除草剤	90170	ジベレリン液剤	植物成長調整剤	95257	スマートフレッシュくん蒸剤	植物成長調整剤
90745	クロレートSL	除草剤	91594	ジベレリン錠剤	植物成長調整剤	90268	スミチオン水和剤40	殺虫剤
92426	ゲッター水和剤	殺菌剤	90171	ジベレリン粉末	植物成長調整剤	90120	スミチオン乳剤	殺虫剤
98365	ケンジャフロアブル	殺菌剤	93236	ジマンダイセンDF	殺虫殺菌剤	91156	スミレックス水和剤	殺菌剤
91497	ゴーゴーサン乳剤30	除草剤	93175	ジマンダイセンフロアブル	殺菌剤	92514	スミロディー水和剤	殺虫剤
94942	コサイド3000	殺菌剤	90449	ジマンダイセン水和剤	殺虫殺菌剤	92375	スミロディー乳剤	殺虫剤
98535	ゴダイリキフロアブル	殺菌剤	96714	ジャストフィットフロアブル	殺菌剤	94812	スワルスキー	殺虫剤
93047	コテツフロアブル	殺虫剤	94031	ジャスモメート液剤	殺虫剤	95858	スワルスキープラス	殺虫剤
98401	コナケン顆粒水和剤	殺菌剤	99003	ジャボット	殺虫剤	93170	セイビアーフロアブル20	殺菌剤
95252	コルト顆粒水和剤	殺虫剤	94083	ジョンカラープロ	植物成長調整剤	81194	セーフガード乳剤	殺菌剤
92500	コロナフロアブル	殺虫殺菌剤	98269	シンクイコンーL	誘引・誘殺・交尾阻害剤	81306	セコンドDF	殺虫剤
93255	コロマイル水和剤	殺虫剤	90145	シンダイン	その他	98776	セルカディスDフロアブル	殺菌剤
92717	コロマイル乳剤	殺虫剤	94237	シンノングリスター	除草剤	96359	セレナーデ水和剤	殺菌剤
94005	コンパカレール液剤	除草剤	93615	スイッチ顆粒水和剤	殺菌剤	93232	ゼンターリ顆粒水和剤	殺虫剤
96637	コンフューザーAA	誘引・誘殺・交尾阻害剤	92244	スカウトフロアブル	殺虫剤	98384	ソウヘキ液剤	殺虫剤
94283	コンフューザーMM	誘引・誘殺・交尾阻害剤	92030	スカウト乳剤	殺虫剤	98575	ソベック エニケード OD	殺菌剤
94008	コンフューザーN	誘引・誘殺・交尾阻害剤	96551	スカシバコンL	誘引・誘殺・交尾阻害剤	98578	ソベック エニベル 顆粒水和剤	殺菌剤
93882	コンフューザーR	誘引・誘殺・交尾阻害剤	93037	スカッシュ	その他	93534	ターンアウト液剤	除草剤
92149	サイハロン水和剤	殺虫剤	98098	スクレアフロアブル	殺菌剤	81267	ダイアジノンMC	殺虫剤
95440	ザクサ液剤	除草剤	97694	スケルカット顆粒水和剤	殺虫剤	92392	ダイアジノンSLゾル	殺虫剤
90595	サッチューコートS	殺虫剤	93035	スケルシン95	殺虫剤	90088	ダイアジノン水和剤34	殺虫剤
98405	サニデイ	植物成長調整剤	97695	スケルソック顆粒水和剤	殺虫剤	95134	ダイナモ顆粒水和剤	殺菌剤
93811	サブマーヅ	その他	93294	スコアMZ水和剤	殺菌剤	93572	ダイパワー水和剤	殺菌剤
90912	サブロール乳剤	殺菌剤	92689	スコア水和剤10	殺菌剤	93644	ダイヤモンド	殺菌剤
94908	サムコルフフロアブル10	殺虫剤	94170	スコア顆粒水和剤	殺菌剤	90533	ダイロン	除草剤
93569	サルバトーレME	殺菌剤	97696	スターガードプラスAL	殺虫殺菌剤	92840	ダイロンゾル	除草剤
92366	サルファーゾル	殺虫殺菌剤	93890	スタークル粒剤	殺虫剤	92058	ダコニール1000	殺菌剤
90951	サンキノリン	殺菌剤	93894	スタークル顆粒水溶剤	殺虫剤	91154	ダコレート水和剤	殺菌剤
92065	サンキャッチ液剤30S	植物成長調整剤	92220	スターナ水和剤	殺菌剤	94071	タッチダウンiQ	除草剤
93617	サンクリスタル乳剤	殺虫殺菌剤	94813	スターマイルフロアブル	殺虫剤	81198	ダニオーテ2フロアブル	殺虫剤
98126	サンショット	植物成長調整剤	90602	ステツケル	その他	98539	ダニオーテフロアブル	殺虫剤

コード	名称	用途	コード	名称	用途	コード	名称	用途
94683	ダニゲッターフロアブル	殺虫剤	91846	トリフミン水和剤	殺菌剤	94053	ヒットα10	植物成長調整剤
98053	ダニコングフロアブル	殺虫剤	94509	トレノックスフロアブル	殺菌剤	94052	ヒットα13	植物成長調整剤
94640	ダニサラバフロアブル	殺虫剤	90246	トレファノサイド乳剤	除草剤	91079	ビティグラン水和剤	殺菌剤
92461	ダニロンフロアブル	殺虫剤	90135	ドロクロール	殺虫殺菌除草剤	90981	ヒトマイシン液剤S	殺菌剤
94137	ダニメツフロアブル	殺虫剤	95223	ナシヒメコン	誘引・誘殺・交尾阻害剤	92699	ピラニカEW	殺虫殺菌剤
98028	ダニレンジャーDC	殺虫剤	97011	ナティーボフロアブル	殺菌剤	92698	ピラニカ水和剤	殺虫殺菌剤
94596	ダニ太郎	殺虫剤	99167	ナメックススプレー	殺虫剤	92503	ビリーブ水和剤	殺虫剤
98054	ダブルフェースフロアブル	殺虫剤	94481	ナリアWDG	殺菌剤	93418	ビルク水和剤	殺虫剤
93883	ダントツ水溶剤	殺虫剤	92564	ニーズ	その他	93430	ファイブスター顆粒水和剤	殺虫剤
90118	チウラム80	殺菌剤	91772	ニツソラン水和剤	殺虫剤	98423	ファインセーフフロアブル	殺虫剤
93507	チェス水和剤	殺虫剤	98303	ネクスターフロアブル	殺菌剤	93826	ファルコンフロアブル	殺虫剤
94388	チェス顆粒水和剤	殺虫剤	94356	ネコソギクイックプロFL	除草剤	96715	ファンタジスタ顆粒水和剤	殺菌剤
94311	チオノックフロアブル	殺菌剤	95703	ネコソギプロ液剤	除草剤	98135	フーモン	殺虫殺菌剤
92059	チューリサイド水和剤	殺虫剤	92436	ノーモルト乳剤	殺虫剤	99036	フーモンフルーツ	殺虫殺菌剤
93706	チューンアップ顆粒水和剤	殺虫剤	94006	ハーブ・ニート液剤	除草剤	93201	フェスティバルC水和剤	殺菌剤
98903	ツインバリアー水和剤	殺菌剤	91412	ハーベストオイル	殺虫殺菌剤	93199	フェスティバル水和剤	殺菌剤
93408	ツバサ顆粒水和剤	除草剤	91501	パーマチオン水和剤	殺虫剤	95300	フェニックスフロアブル	殺虫剤
95444	ディアナWDG	殺虫剤	93949	バイオマックスDF	殺虫剤	94538	フェニックス顆粒水和剤	殺虫剤
94000	テーク水和剤	殺菌剤	92994	バイオリサ・カミキリ	殺虫剤	95213	フォリオゴールド	殺菌剤
90372	デゾレートA	除草剤	98304	ハイジャンプフロアブル	殺菌剤	95855	フジドールフロアブル	殺菌剤
98383	テツパン液剤	殺虫剤	92181	バイスロイドEW	殺虫剤	90794	フジワン粒剤	殺虫殺菌補調剤
90190	テデオ水和剤	殺虫剤	93708	ハイテンパワー	その他	92460	フラスター液剤	植物成長調整剤
92593	テデオ乳剤	殺虫剤	94003	ハイフノン液剤	除草剤	91073	ブラテン80	その他
90100	テナボン水和剤50	殺虫補調剤	92236	バウンティフロアブル	植物成長調整剤	93496	ブラボー	その他
92079	デミリン水和剤	殺虫剤	91221	バシタック水和剤75	殺菌剤	92977	フランカックスプレー	殺菌剤
97516	デュアルサイド水和剤	殺虫殺菌剤	91340	バシレックス水和剤	殺虫剤	93276	フリーパス	除草剤
92618	デランフロアブル	殺菌剤	91124	バスアミド微粒剤	殺虫殺菌除草剤	91887	ブリグロックSL	除草補調剤
98556	デリゲートWDG	殺虫剤	98338	バスタ プロ液剤	除草剤	93784	フロントフロアブル25	殺菌剤
98306	デリシャス水和剤	殺菌剤	98816	バスタAL	除草剤	98525	フルーツガードWDG	殺菌剤
95146	テルスタージェット	殺虫剤	91620	バスタ液剤	除草剤	95859	フルーツセイバー	殺菌剤
92931	テルスターフロアブル	殺虫剤	94726	バスポート顆粒水和剤	殺菌剤	93371	フルピカくん煙剤	殺菌剤
92597	テルスター水和剤	殺虫剤	93561	パスワード顆粒水和剤	殺菌剤	93006	フルピカフロアブル	殺菌剤
93379	デルフィン顆粒水和剤	殺虫剤	92940	パダンSG水溶剤	殺虫殺菌剤	92241	フルメット液剤	植物成長調整剤
91140	トアロー水和剤CT	殺虫剤	94034	ハチハチフロアブル	殺虫殺菌剤	94798	ブレイクスルー	その他
94104	ドーシャスフロアブル	殺菌剤	91074	バッチレート	殺菌補調剤	98071	ブレリユード液剤	植物成長調整剤
92653	ドキンフロアブル	殺菌剤	81132	パビンコフロアブル	殺菌剤	92871	ブローダ水和剤	殺菌剤
91578	トクチオン水和剤	殺虫剤	93762	ハマキコン-N	誘引・誘殺・交尾阻害剤	93806	フローバックDF	殺虫剤
90838	トクチオン乳剤	殺虫剤	94024	ハマキ天敵	殺虫剤	97692	フロバティフロアブル	殺菌剤
90140	ドジョウビクリン	殺虫殺菌除草剤	93781	バリアード顆粒水和剤	殺虫剤	92853	フロンサイドSC	殺虫殺菌剤
93081	トップジンMオイルペースト	殺菌剤	92295	バリダシン液剤5	殺菌剤	92361	フロンサイド水和剤	殺虫殺菌剤
91061	トップジンMゾル	殺菌剤	98425	バレード15フロアブル	殺菌剤	93042	ベジタメートAL	殺虫剤
90836	トップジンMペースト	殺菌補調剤	93417	パロックフロアブル	殺虫剤	93008	ベストガード水溶剤	殺虫剤
90558	トップジンM水和剤	殺菌剤	94063	パンチョTF顆粒水和剤	殺菌剤	98536	ベスト展	その他
90039	トモノール	殺虫剤	93996	パンチョ顆粒水和剤	殺菌剤	90934	ベタリン-A	その他
90403	トモノールS	殺虫殺菌剤	91125	ビーエー液剤	植物成長調整剤	94119	ベタリンB	その他
98548	ドライバー	その他	94011	ビオネクト	殺菌剤	91314	ペタンV	その他
91034	トラサイドA乳剤	殺虫剤	94873	ヒオモン水溶剤	植物成長調整剤	94878	ベトファイター顆粒水和剤	殺菌剤
98380	トランスフォームフロアブル	殺虫剤	97635	ピクシオDF	殺菌剤	98817	ベニカAスプレー	殺虫剤

コード	名称	用途	コード	名称	用途	コード	名称	用途
98195	ベニカRスプレー	殺虫剤	94314	マラソン乳剤	殺虫剤	92834	ロブラール500アクア	殺菌剤
98106	ベニカR乳剤	殺虫剤	90028	マラソン乳剤50	殺虫剤	92511	ロブラールくん煙剤	殺菌剤
97160	ベニカS乳剤	殺虫剤	90036	マラソン粉剤3	殺虫剤	91055	ロブラール水和剤	殺菌剤
98462	ベニカVフレッシュスプレー	殺虫殺菌剤	93663	マルガリーダ	除草剤	92961	ロムダンフロアブル	殺虫剤
98178	ベニカミキリムシエアゾール	殺虫剤	81196	マンゼート水和剤	殺菌剤	90393	ロロックス	除草剤
99066	ベニカナチュラルスプレー	殺虫殺菌剤	98858	ミギワ20フロアブル	殺菌剤	81165	ロンセラーフロアブル	殺菌剤
97950	ベニカベジフルVスプレー	殺虫殺菌剤	90128	ミクロデナボン水和剤85	殺虫植調剤	95177	ワイドコート	その他
97169	ベニカベジフルスプレー	殺虫剤	81290	ミックスセーフ	その他	94251	ワンオフ	その他
98325	ベニカベジフル乳剤	殺虫剤	99153	ミネクトエクストラSC	殺虫剤	90094	園芸ボルドー	殺虫殺菌剤
94728	ベニカマイルドスプレー	殺虫殺菌剤	98807	ミリオネアフロアブル	殺菌剤	91711	園芸用キンチョールE	殺虫剤
94888	ベニカマイルド液剤	殺虫殺菌剤	98849	ムケツフロアブル	殺菌剤	97600	家庭園芸用カリグリーン	殺菌剤
94295	ベニカ水溶剤	殺虫剤	94911	ムシラップ	殺虫殺菌剤	93226	家庭園芸用スミチオン乳剤	殺虫剤
97544	ベネセット水和剤	殺菌剤	97521	ムッシュボルドーDF	殺虫殺菌剤	93327	家庭園芸用トップジンMゾル	殺菌剤
81121	ベランティーフロアブル	殺菌剤	90420	メチルオイゲノール	誘引・誘殺・交尾阻害剤	95789	家庭園芸用バシレックス水和剤	殺虫剤
93369	ベルコートフロアブル	殺菌剤	93127	モスピランジェット	殺虫剤	94317	家庭園芸用マラソン乳剤	殺虫剤
92881	ベルコート水和剤	殺菌剤	93016	モスピラン水溶剤	殺虫剤	90025	機械油乳剤95	殺虫剤
92993	ベルクガード水和剤	殺菌剤	93017	モスピラン粒剤	殺虫剤	90048	高度マシン95	殺虫剤
81233	ベルトップジンフロアブル	殺菌剤	94969	モスピラン顆粒水溶剤	殺虫剤	90002	石灰硫黄合剤	殺虫殺菌植調剤
92889	ベンコゼブフロアブル	殺菌剤	97546	モベントフロアブル	殺虫殺菌剤	93634	草ノコラーズ	除草剤
92890	ベンコゼブ水和剤	殺虫殺菌剤	91374	ユーゲサイドD	誘引・誘殺・交尾阻害剤	99000	草刈りサクサク原液	除草剤
94195	ベンコゼブ顆粒水和剤	殺虫殺菌剤	93449	ユニックス顆粒水和剤47	殺菌剤	93446	草枯らし	除草剤
90684	ベンレートT水和剤20	殺虫殺菌剤	98778	ヨーバルフロアブル	殺虫剤	98572	草消滅	除草剤
91001	ベンレート水和剤	殺菌剤	90735	ヨネボン	殺虫殺菌剤	95189	展着パウダー30	その他
90902	ホームマイコート	殺菌剤	91824	ヨネボン水和剤	殺虫殺菌剤	92210	展着剤アグラー	その他
98057	ポケットウコンーH	誘引・誘殺・交尾阻害剤	97518	ライトアップフロアブル	殺菌剤	94724	展着剤ササラ	その他
93482	ポトキラー水和剤	殺菌剤	94723	ライメイフロアブル	殺菌剤	93422	粘着くん液剤	殺虫殺菌剤
93646	ホライズンドライフロアブル	殺菌剤	91113	ラウンドアップ	除草剤	94304	粘着くん水和剤	殺虫剤
94315	ポリオキシAL水溶剤	殺虫殺菌剤	93138	ラウンドアップドライ	除草剤	90238	農薬用(ボルドー液用)粉末生石灰	その他
90371	ポリオキシAL水和剤	殺虫殺菌剤	94462	ラウンドアップマックスロード	除草剤	90074	粉状丹礬	殺菌剤
90010	ボルドー液用生石灰	その他	90472	ラッソー乳剤	除草剤	90072	硫黄粉剤50	殺虫殺菌剤
90138	ボルドー液用粉末生石灰	その他	90993	ラビサンスプレー	殺虫剤	90240	硫酸銅	殺菌剤
95299	ホホワイトコート	その他	92810	ラビデン3S	その他	90064	硫酸銅(粉)	殺菌剤
91786	マイコシールド	殺菌剤	90603	ラビライト水和剤	殺虫殺菌剤	90077	硫酸銅(粉状)	殺菌剤
90304	マイシン20水和剤	殺菌剤	94854	ラブストップヒメシン	誘引・誘殺・交尾阻害剤	94422	緑化用スミチオン乳剤	殺虫剤
91888	マイゼット	除草植調剤	92421	ラーイー水和剤	殺菌剤			
94249	マイター液剤	除草剤	93785	ランマンフロアブル	殺菌剤			
93692	マイトコーネフロアブル	殺虫剤	94250	リーズン顆粒水和剤	殺虫剤			
90722	マイリノー	その他	92089	リゾレックス水和剤	殺菌剤			
94124	まくびか	その他	95214	リドミルゴールドMZ	殺菌剤			
93034	マシン油乳剤95	殺虫剤	94653	リノーエース	その他			
97598	マスタピース水和剤	殺菌剤	92080	ルビゲン水和剤	殺菌剤			
93448	マッチ乳剤	殺虫剤	94862	レーバスフロアブル	殺菌剤			
93612	マトリックフロアブル	殺虫剤	90159	レグロックス	除草植調剤			
93186	マネージDF	殺菌剤	94281	ロディーWDG	殺虫剤			
92822	マネージ水和剤	殺菌剤	92183	ロディー水和剤	殺虫剤			
92523	マブリックEW	殺虫剤	92182	ロディー乳剤	殺虫剤			
92022	マブリック水和剤20	殺虫剤	98515	ロハビ	殺虫殺菌剤			
94587	マモロット顆粒水和剤	殺菌剤	98179	ロビンフッド	殺虫剤			